

川俣町 住民意向調査 報告書

平成27年3月

復興庁
福島県
川俣町

川俣町 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の避難先自治体	13
3-1-2 世帯構成・人数	15
3-1-3 職業	19
3-1-4 震災発生当時の住宅の状況	22
3-1-5 現在の住居形態	24
3-2 将来の意向	28
3-2-1 山木屋地区への帰還意向	28
3-2-2 山木屋地区との“つながり”を保ちたいか	33
3-2-3 山木屋地区への帰還を判断する上で必要と思う情報	35
3-2-4 山木屋地区への帰還時期	39
3-2-5 山木屋地区へ戻る場合の家族	41
3-2-6 帰還する場合に希望する住居形態	43
3-2-7 元の持ち家以外を希望する理由	45
3-2-8 山木屋地区へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援	46
3-2-9 現時点で戻らないと決めている理由	48
3-2-10 帰還しない場合に居住したい主な自治体	51
3-2-11 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態	53

3-2-12 山木屋地区へ戻らない場合の今後の生活において必要な支援	54
3-3 意見・要望	56
IV 参考資料	69
4-1 使用調査票	71

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、山木屋地区住民の避難期間中の生活環境の整備や、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	川俣町山木屋地区
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 559 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成26年12月2日（火）～平成26年12月16日（火）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、川俣町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 319 世帯（有効回収率 57.1%）

1-5 報告書の見方

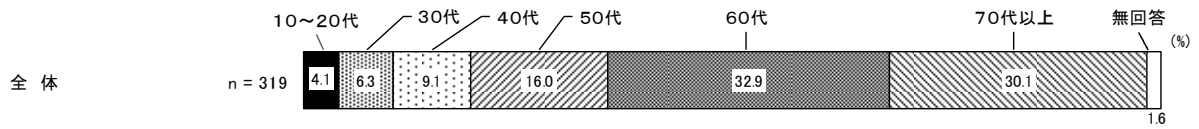
- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね30を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。ただし、年齢別及び震災発生当時の行政区別の分析は n 値が30を下回る場合も言及する場合がある。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

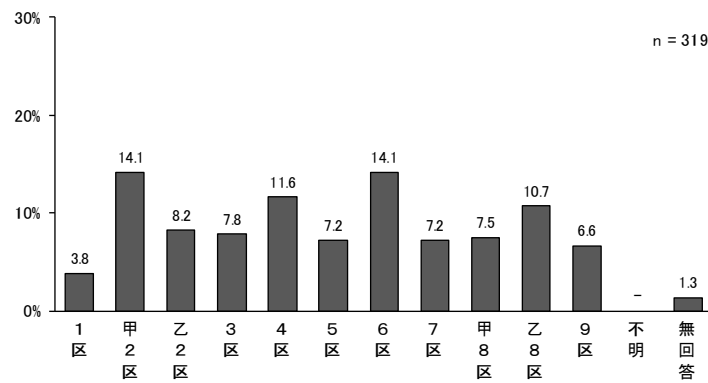
(1) 年齢

<図表2-1-1 年齢>



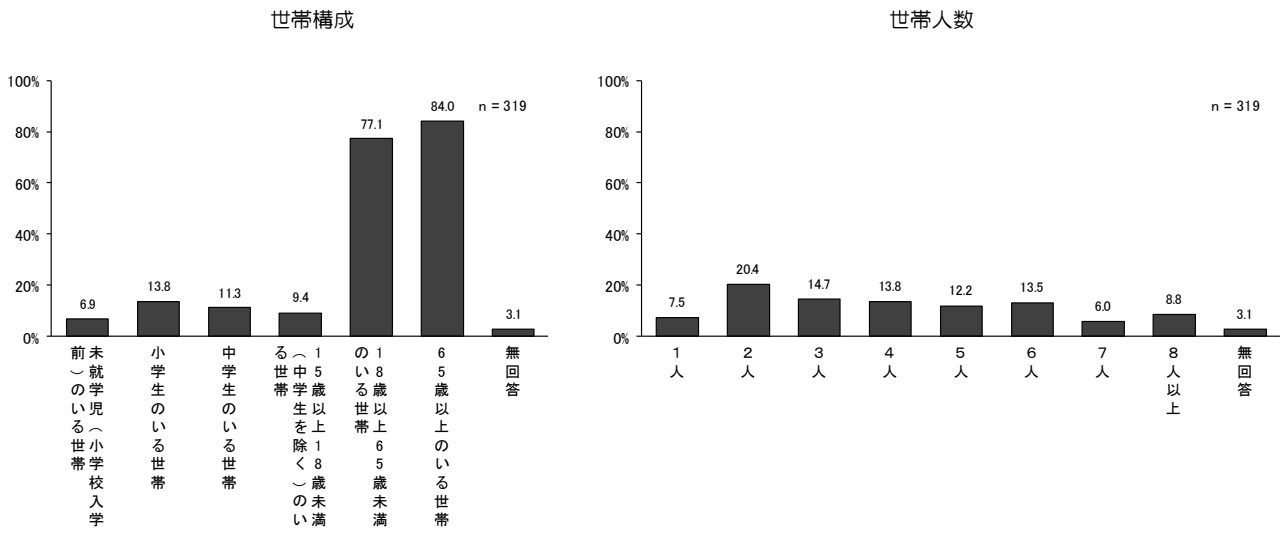
(2) 震災発生当時居住していた行政区

<図表2-1-2 震災発生当時居住していた行政区>

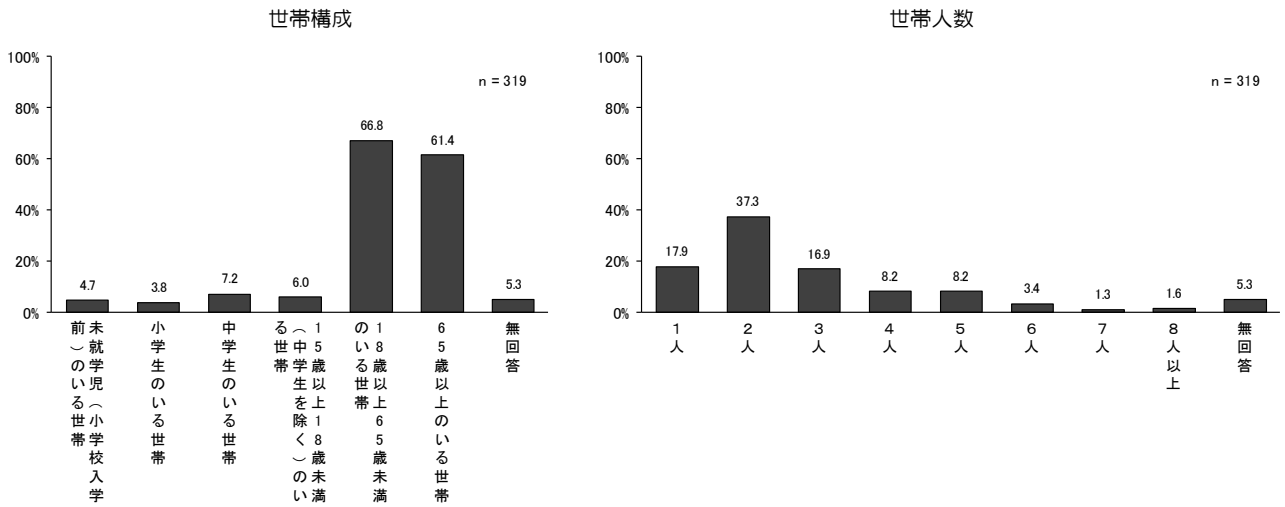


(3) 世帯構成・人数

<図表2-1-3 震災発生当時の世帯構成・人数>

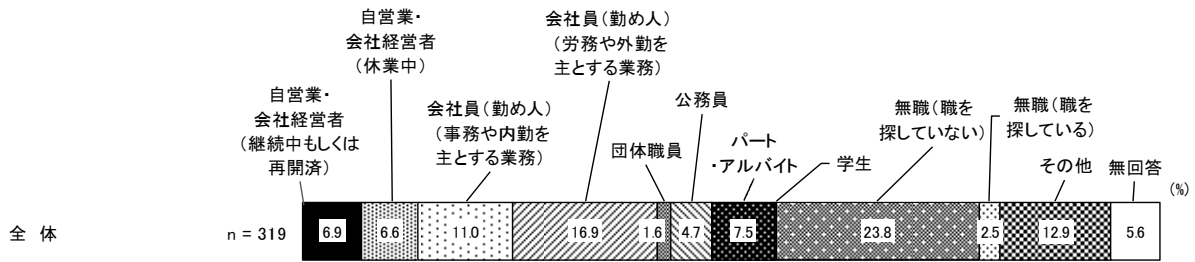


<図表2-1-4 現在の世帯構成・人数>

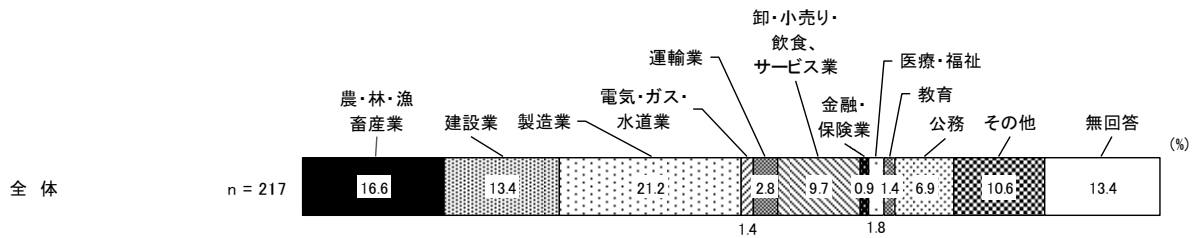


(4) 職業

<図表2-1-5 現在の職業(就業形態)>

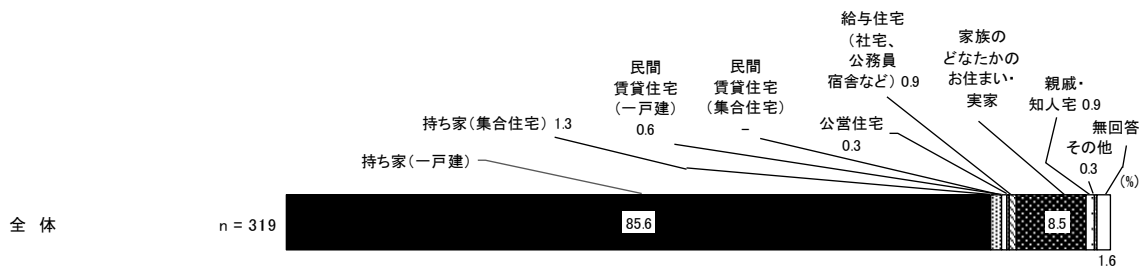


<図表2-1-6 現在の業種>

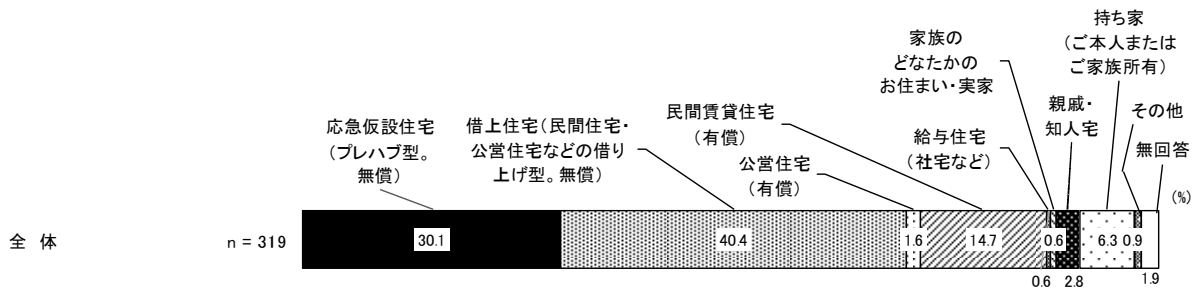


(5) 住居形態

<図表2-1-7 震災発生当時の住居形態>



<図表2-1-8 現在の住居形態>



III 調査結果

3-1 現在の状況

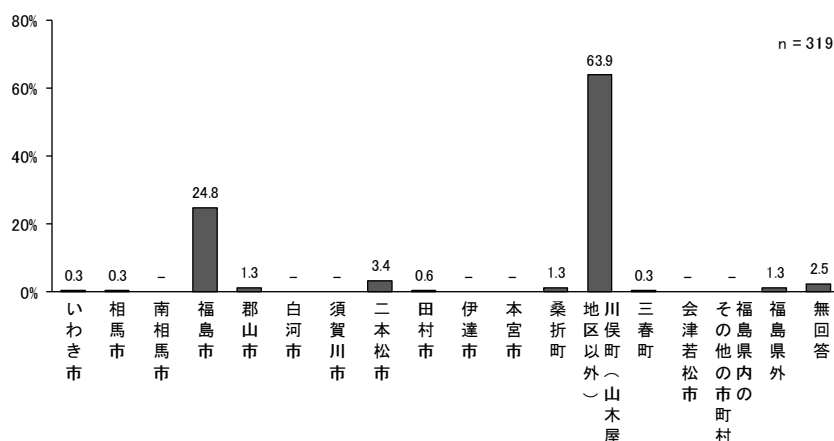
3-1-1 現在の避難先自治体

問5 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(〇は1つ)

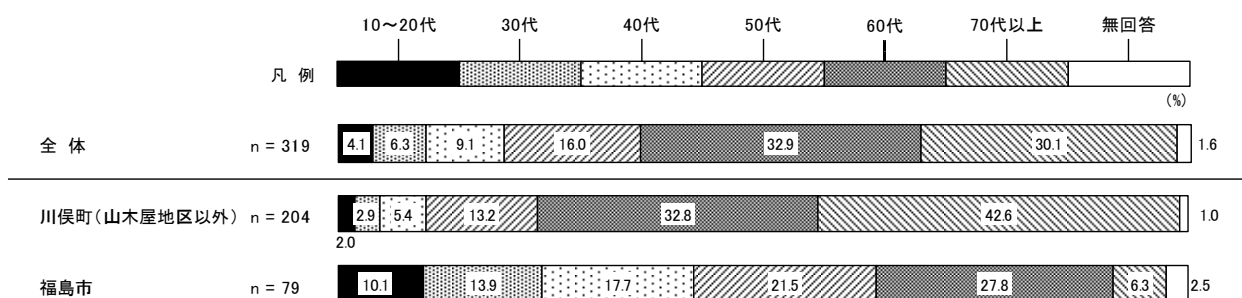
現在の避難先自治体については、「川俣町（山木屋地区以外）」が63.9%と最も高く、次いで「福島市」が24.8%、「二本松市」が3.4%となっている。

避難先の主な自治体について回答者の年齢別にみると、「川俣町(山木屋地区以外)」は60代以上が75.4%と7割以上を占め、高齢層が高い。一方、「福島市」では30代以下が2割を超えており、若年層の割合が比較的高くなっている。

<図表3-1-1-1 避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の年齢構成>



III 調査結果

震災発生当時の行政区別にみると、3区、4区、5区では「川俣町（山木屋地区以外）」が7割以上となっている。また、1区、7区では「福島市」が4割以上となっている。

<図表3-1-1-3 主な避難先自治体（行政区別）>

	n	（%）	
		屋川地区町以外（山木屋）	福島市
全体	319	63.9	24.8
1区	12	50.0	41.7
甲2区	45	60.0	31.1
乙2区	26	65.4	19.2
3区	25	76.0	16.0
4区	37	81.1	13.5
5区	23	73.9	17.4
6区	45	68.9	20.0
7区	23	43.5	43.5
甲8区	24	58.3	29.2
乙8区	34	61.8	23.5
9区	21	47.6	28.6
不明	-	-	-

3-1-2 世帯構成・人数

(1) 震災発生当時の世帯構成・人数

問6 **震災発生当時**と**現在**の世帯構成についてうかがいます。

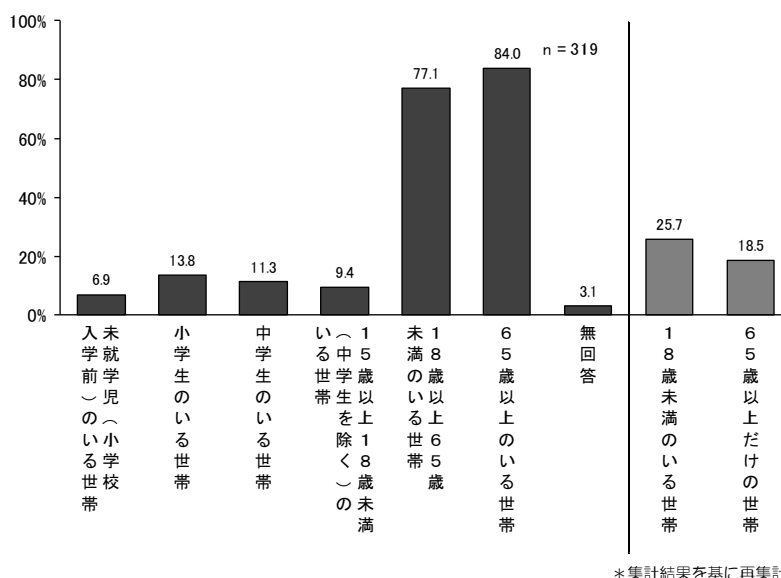
(1) 「**震災発生当時**」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

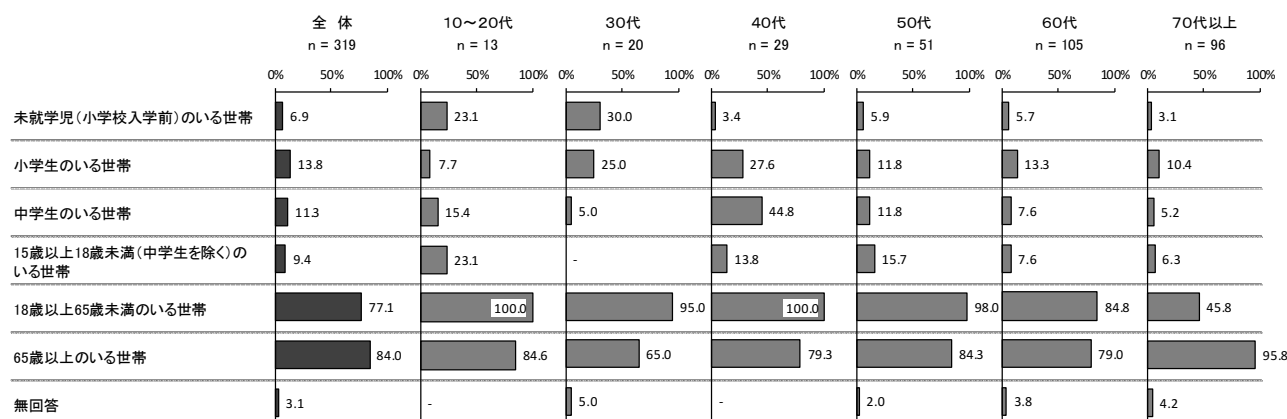
① 震災発生当時の世帯構成

震災発生当時の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が77.1%、「65歳以上のいる世帯」が84.0%となっている。一方、「未就学児のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「15歳以上18歳未満のいる世帯」はいずれも1割前後となっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯構成>



<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成(年齢別)>

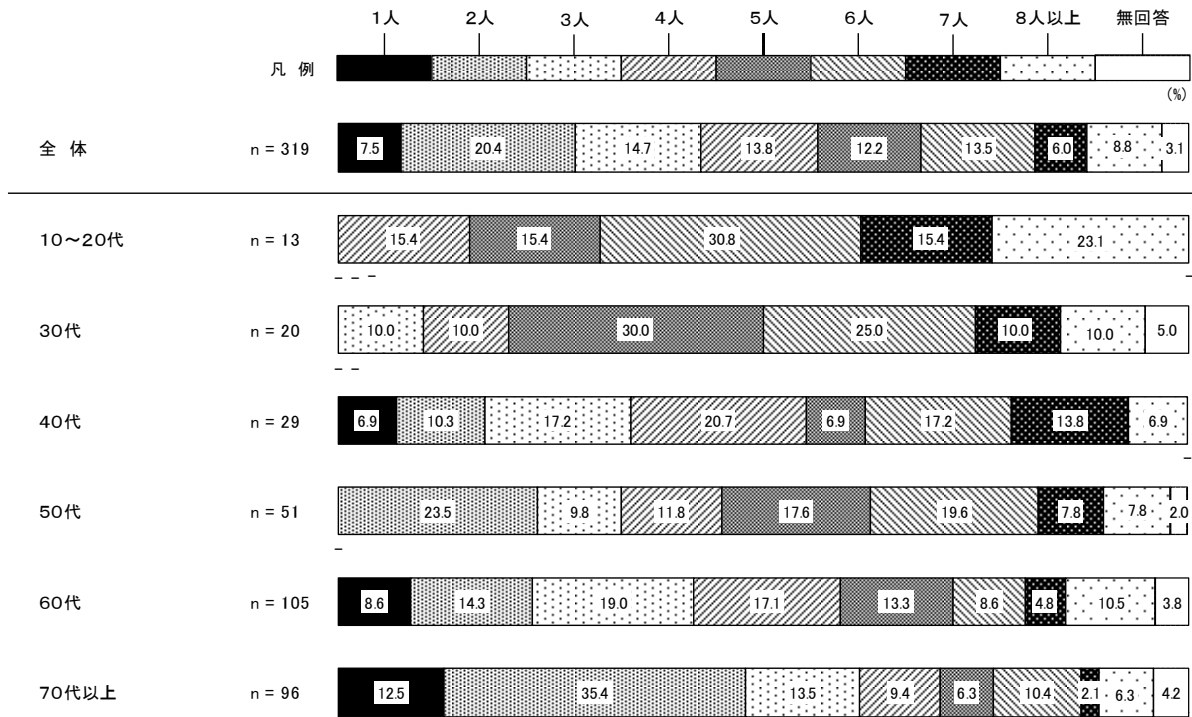


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数は、「2人」が20.4%と最も高く、次いで「3人」(14.7%)、「4人」(13.8%)となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は概ね年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上で35.4%と最も高くなっている。「3人」は60代で19.0%、「4人」は40代で20.7%と最も高くなっている。

<図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯人数(年齢別)>



(2) 現在の世帯構成・人数

問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

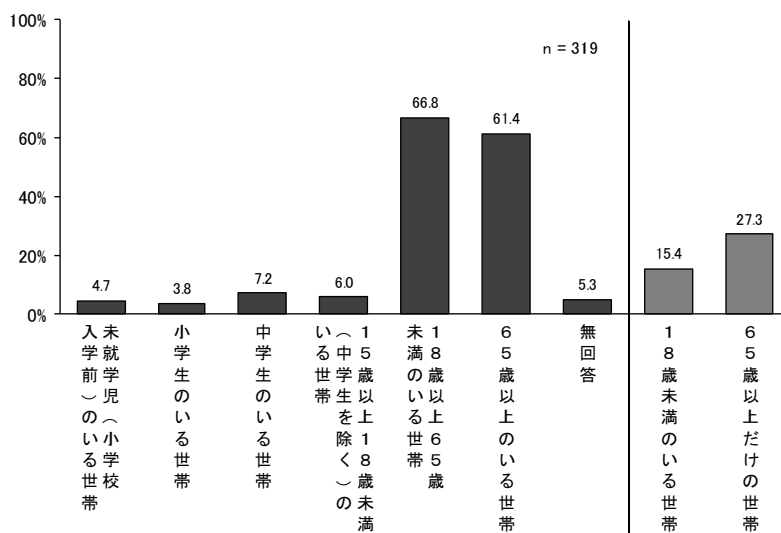
(2) 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

① 現在の世帯構成

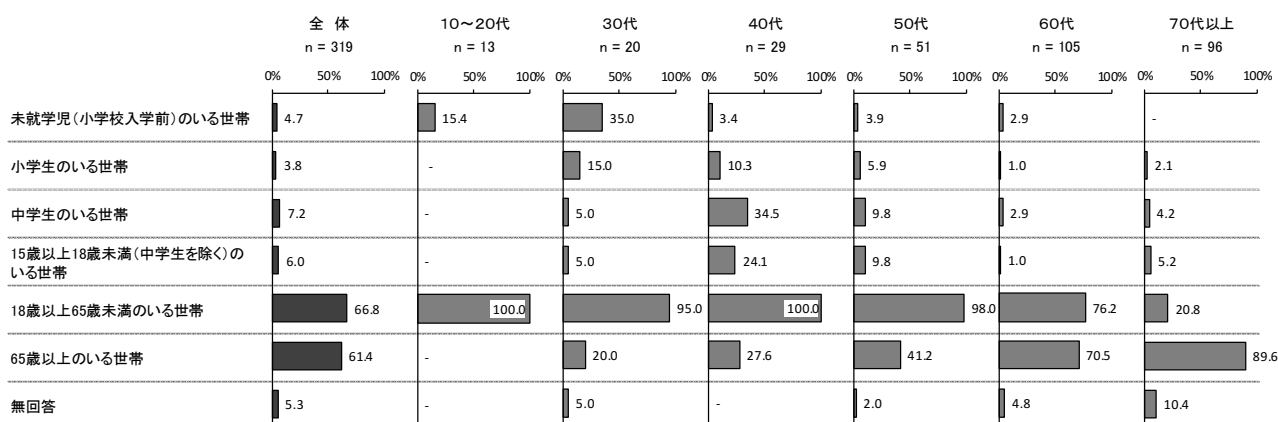
現在の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が66.8%、「65歳以上のいる世帯」が61.4%となっている。一方、「未就学児のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「15歳以上18歳未満のいる世帯」はいずれも1割未満となっている。

<図表3-1-2-4 現在の世帯構成>



*集計結果を基に再集計

<図表3-1-2-5 現在の世帯構成(年齢別)>

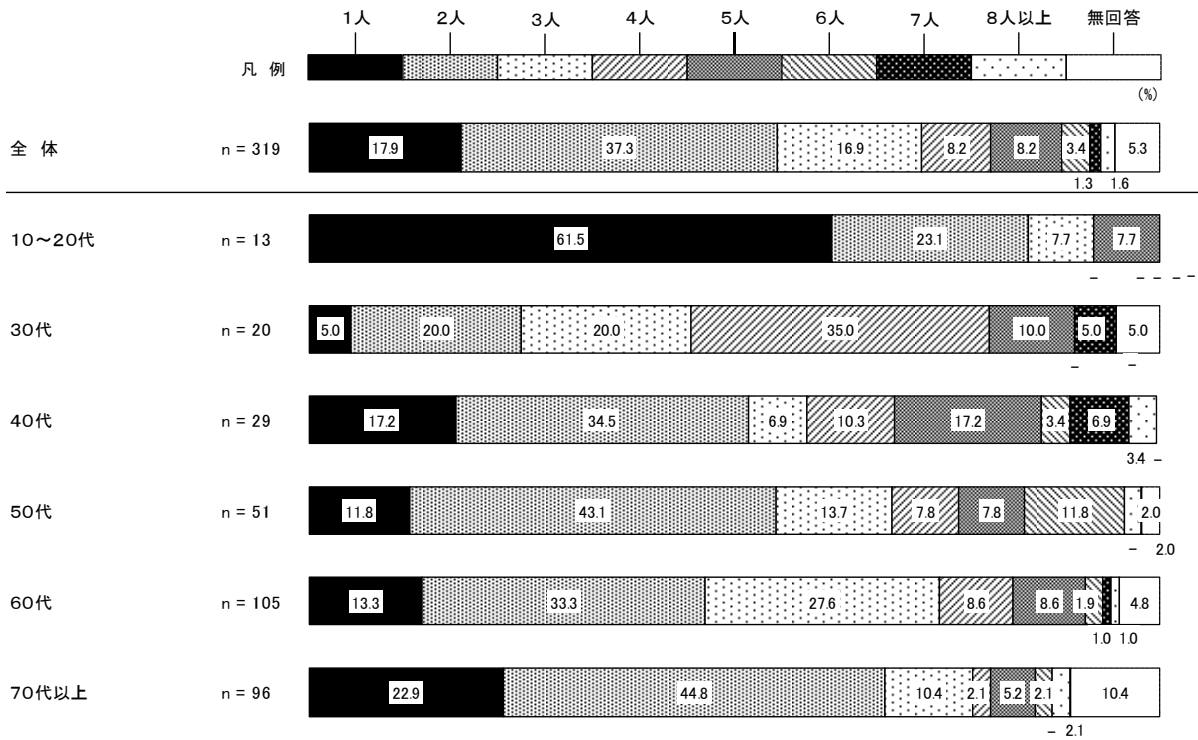


② 現在の世帯人数

現在の世帯人数は、「2人」が37.3%と最も高く、次いで「1人」(17.9%)、「3人」(16.9%)となっている。

回答者の年齢別にみると、「1人」は10~20代(61.5%)、「2人」は70代以上(44.8%)、50代(43.1%)、「3人」は60代(27.6%)「4人」は30代(35.0%)が他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-1-2-6 現在の世帯人数(年齢別)>



3-1-3 職業

(1) 現在の職業（就業形態）

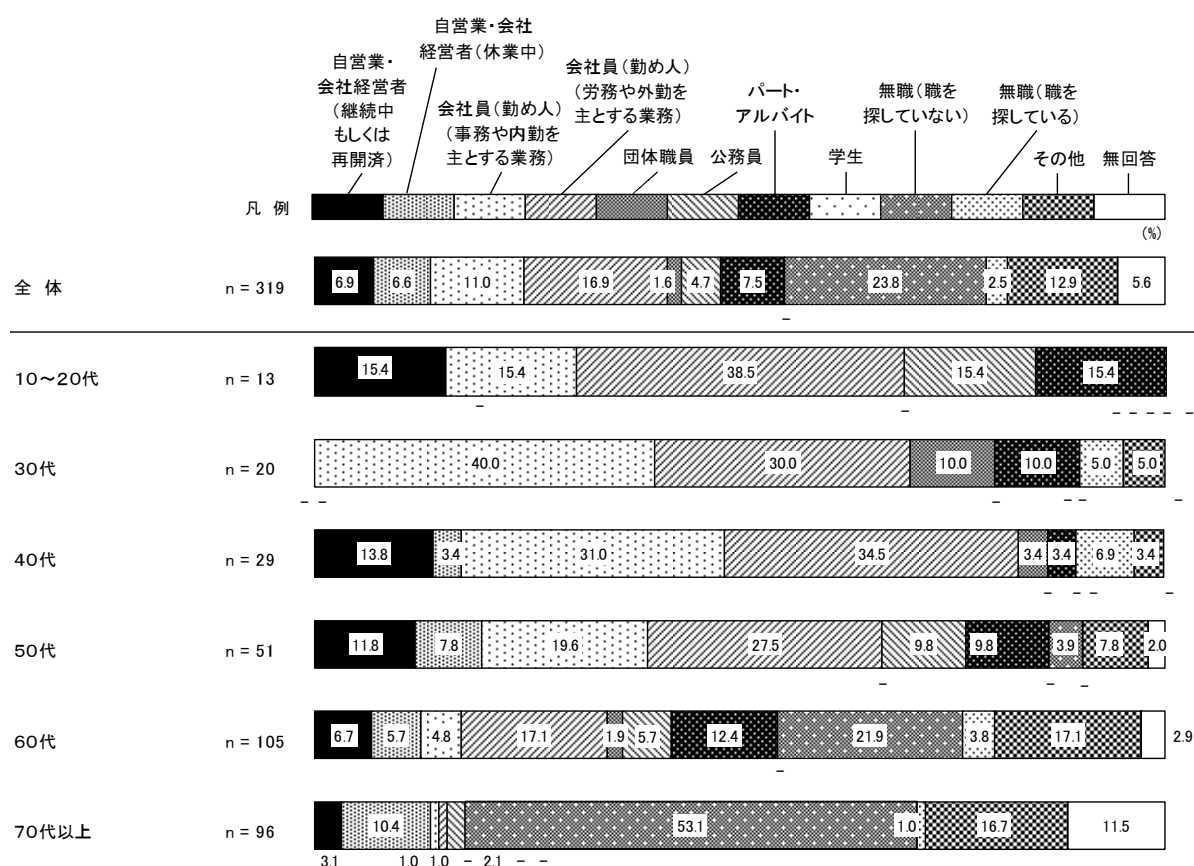
問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(○は1つ)

現在の職業（就業形態）については、無職以外では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が16.9%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が11.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、それぞれ最も高い割合を占めている職業は10～20代は「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」(38.5%)、30代は「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」(40.0%)、40代は「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」(34.5%)、50代は「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」(27.5%)、60代は「無職（職を探していない）」(21.9%)、70代以上は「無職（職を探していない）」(53.1%)となっている。

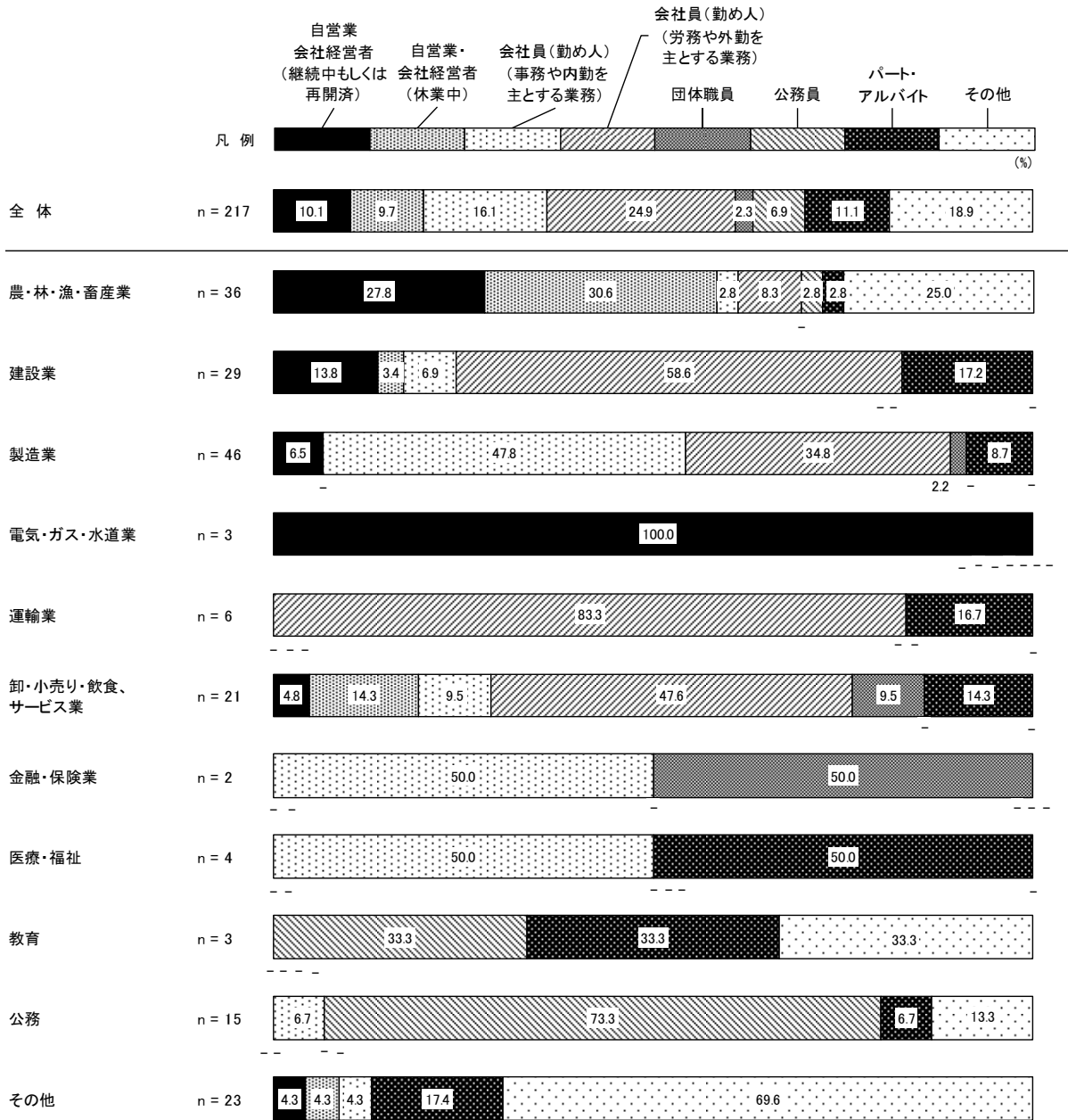
<図表3-1-3-1 現在の職業（年齢別）>



III 調査結果

世帯主が就業しているとした世帯について業種別にみると、製造業では「会社員(勤め人) (事務や内勤を主とする業務)」(47.8%)、農・林・漁・畜産業では「自営業・会社経営者(休業中)」(30.6%)が他の業種と比べ高くなっている。

＜図表3-1-3-2 現在の職業（業種別）＞



(2) 現在の業種

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

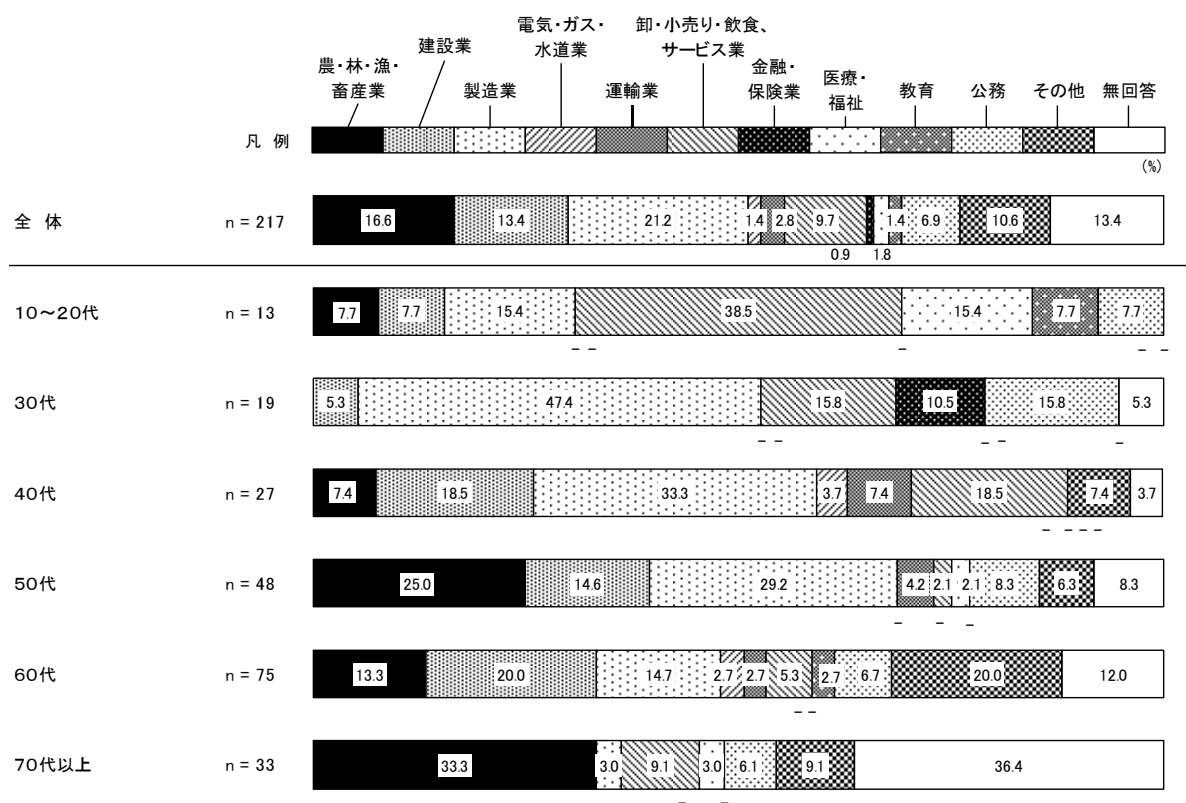
【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

世帯主が就業しているとした世帯の業種については、「製造業」が21.2%と最も高く、次いで「農・林・漁・畜産業」が16.6%、「建設業」が13.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「製造業」は、30代が47.4%、「農・林・漁・畜産業」は、70代以上が33.3%、「卸・小売り・飲食、サービス業」は、10~20代が38.5%となっており、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-1-3-3 現在の業種(年齢別)>



3-1-4 震災発生当時の住宅の状況

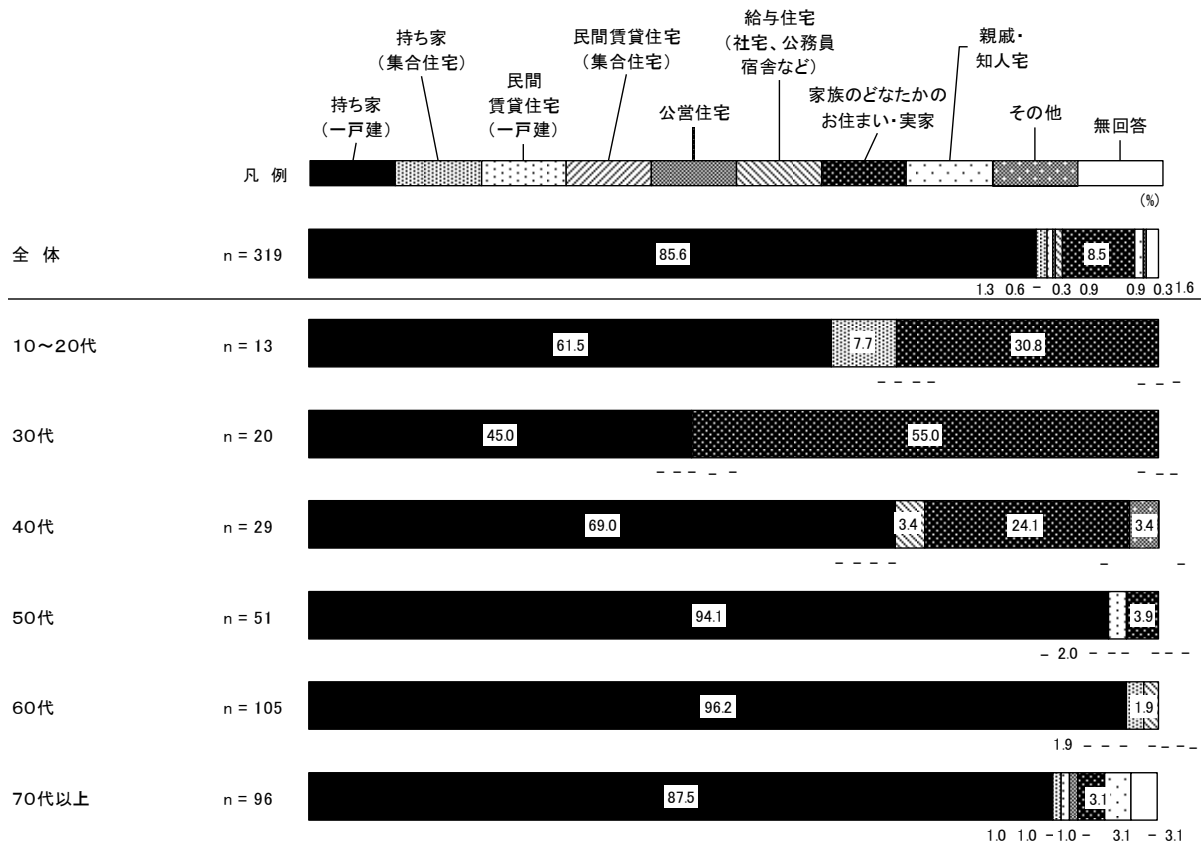
(1) 震災発生当時の住居形態

問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家(一戸建)」が85.6%と最も高く、「持ち家(集合住宅)」(1.3%)を合わせた<持ち家>は86.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家(一戸建)」は50代で94.1%、60代で96.2%と9割以上を占めている。一方、「家族のどなたかのお住まい・実家」は若年層で高く、30代で55.0%と過半数を占めている。

<図表3-1-4-1 震災発生当時の住居形態(年齢別)>



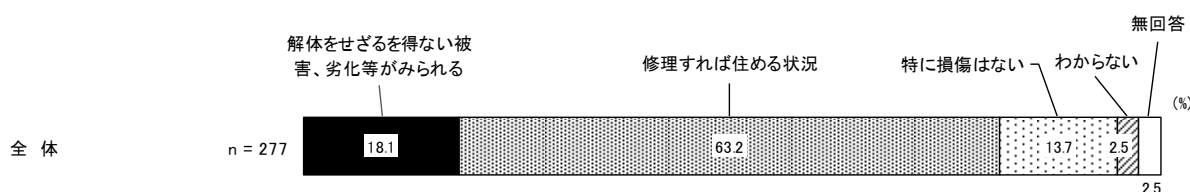
(2) 震災発生当時の住宅の状況

【問4で「1. 持ち家(一戸建)」「2. 持ち家(集合住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問4-1 震災および原発事故発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。(〇は1つ)

震災発生当時の住宅の状況については、「修理すれば住める状況」が63.2%と最も高く、次いで「解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる」が18.1%となっている。

<図表3-1-4-2 震災発生当時の住宅の状況>



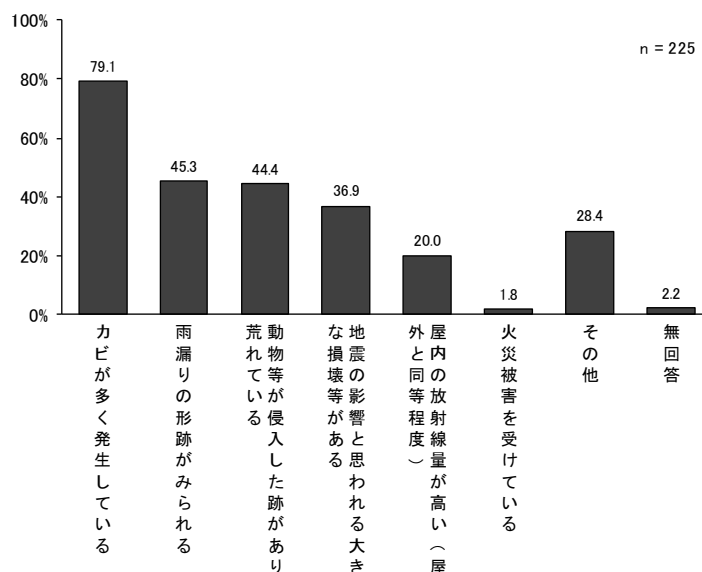
(3) 震災発生当時の住宅の被害状況

【問4-1で「1. 解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる」「2. 修理すれば住める状況」と回答した方にうかがいます。】

問4-2 震災および原発事故発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような被害や劣化等がありますか。(〇はいくつでも)

震災発生当時の住宅の被害状況については、「カビが多く発生している」が79.1%と最も高く、次いで「雨漏りの形跡がみられる」が45.3%となっている。

<図表3-1-4-3 震災発生当時の住宅の被害状況>



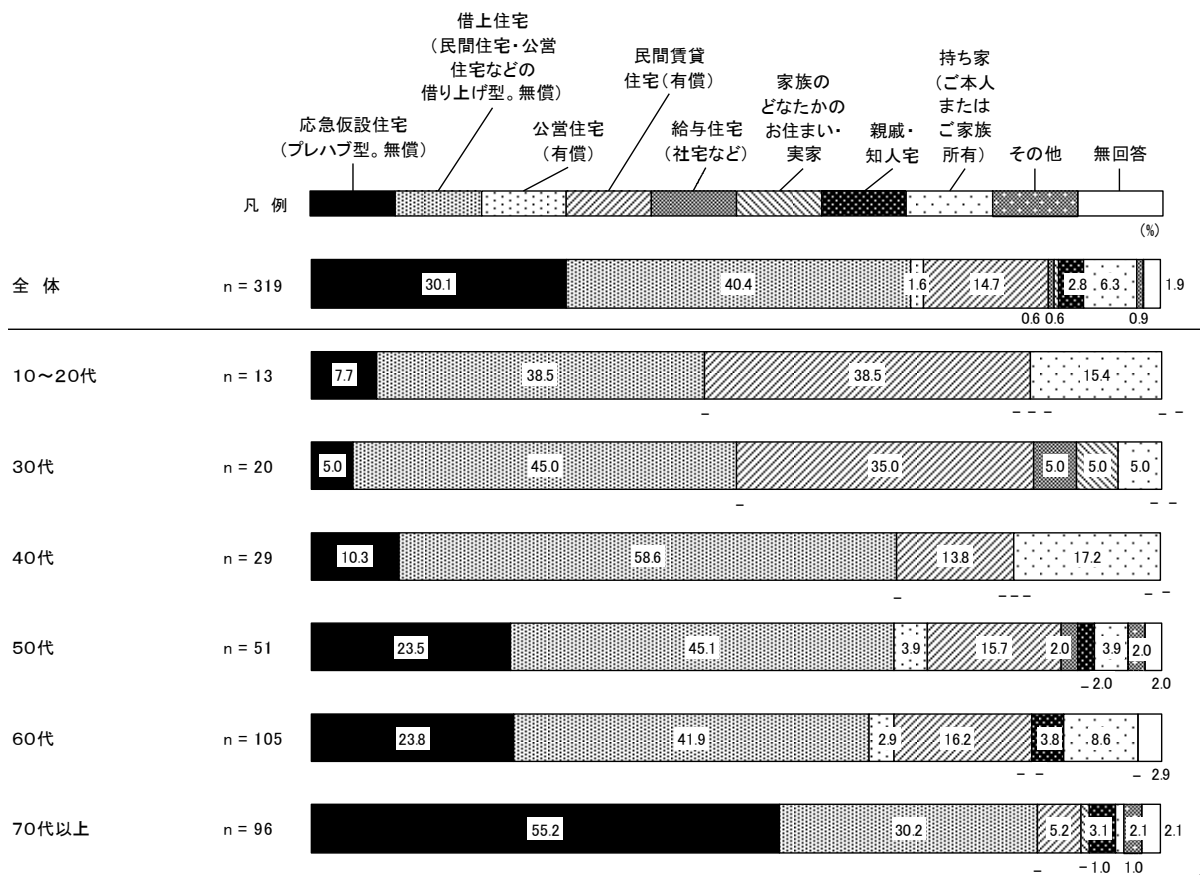
3-1-5 現在の住居形態

問7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態については、「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が40.4%と最も高く、次いで「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」が30.1%、「民間賃貸住宅（有償）」が14.7%となっている。

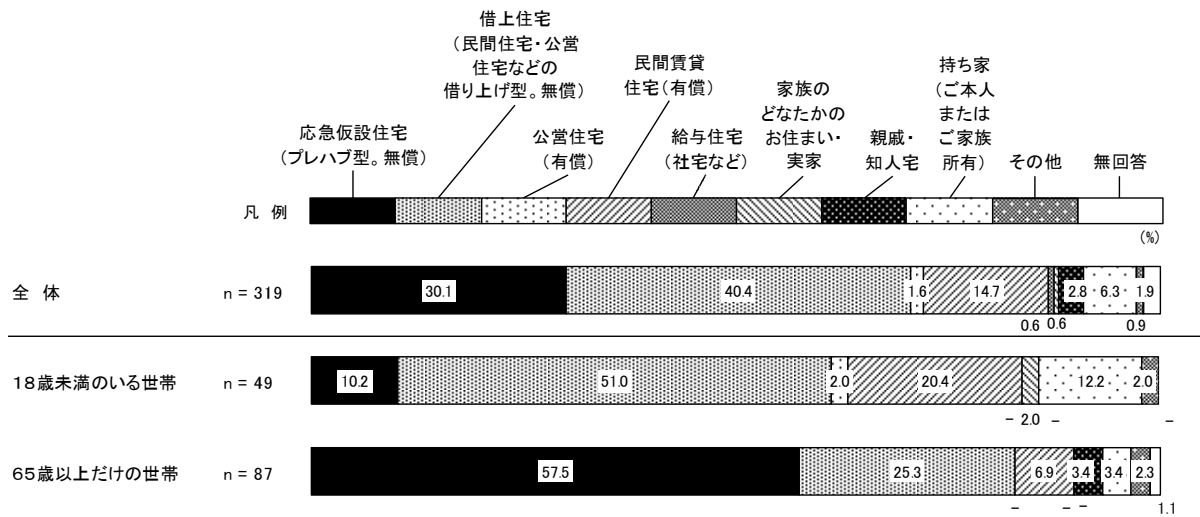
回答者の年齢別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上では55.2%となっている。一方、「民間賃貸住宅（有償）」では若年層で高く、10～20代が38.5%、30代で35.0%となっている。「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は40代（58.6%）が他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-1-5-1 現在の住居形態（年齢別）>



世帯構成別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は、65歳以上だけの世帯が57.5%と高くなっている。「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、18歳未満のいる世帯が51.0%と高い。

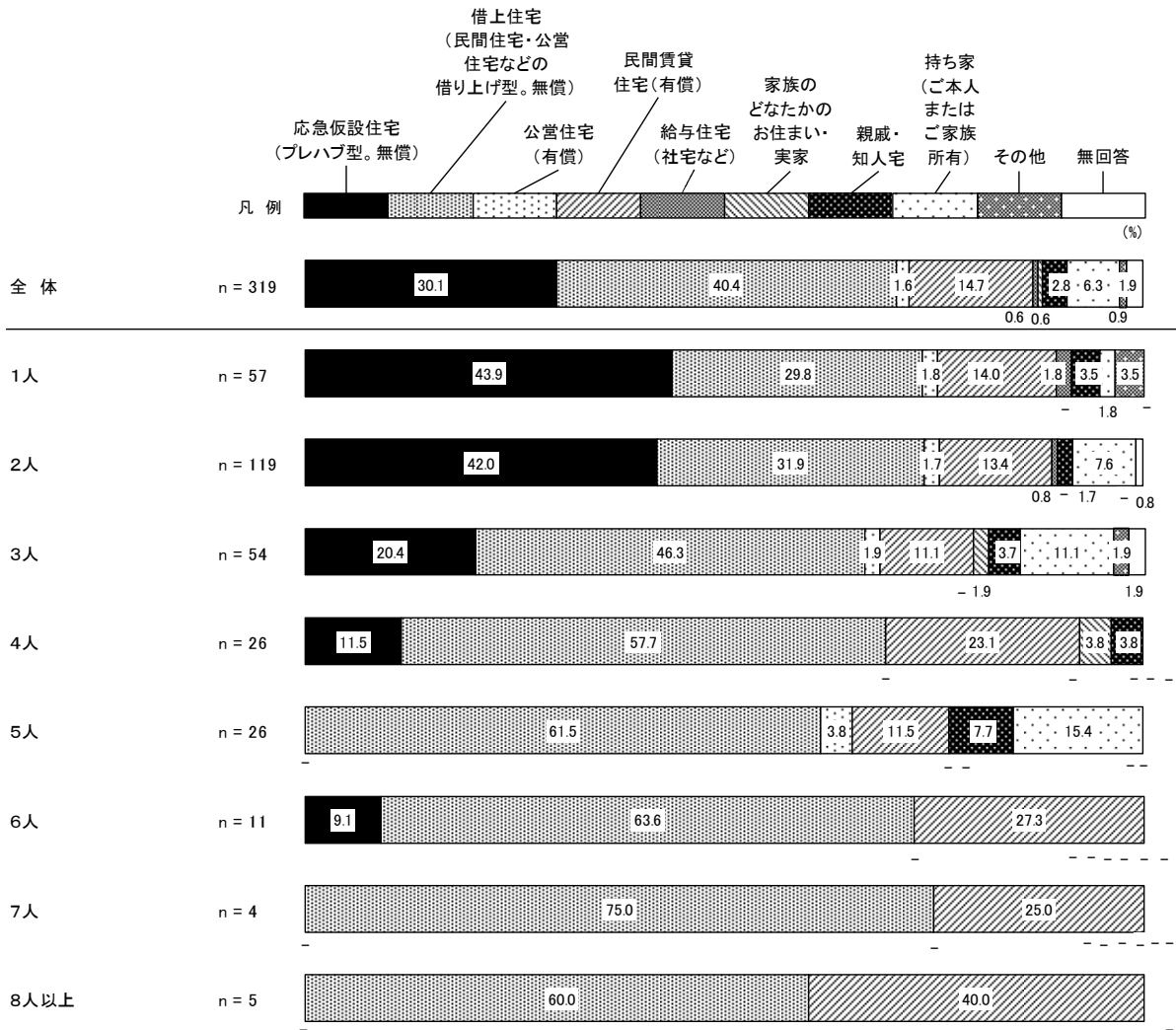
<図表3-1-5-2 現在の住居形態（世帯構成別）>



III 調査結果

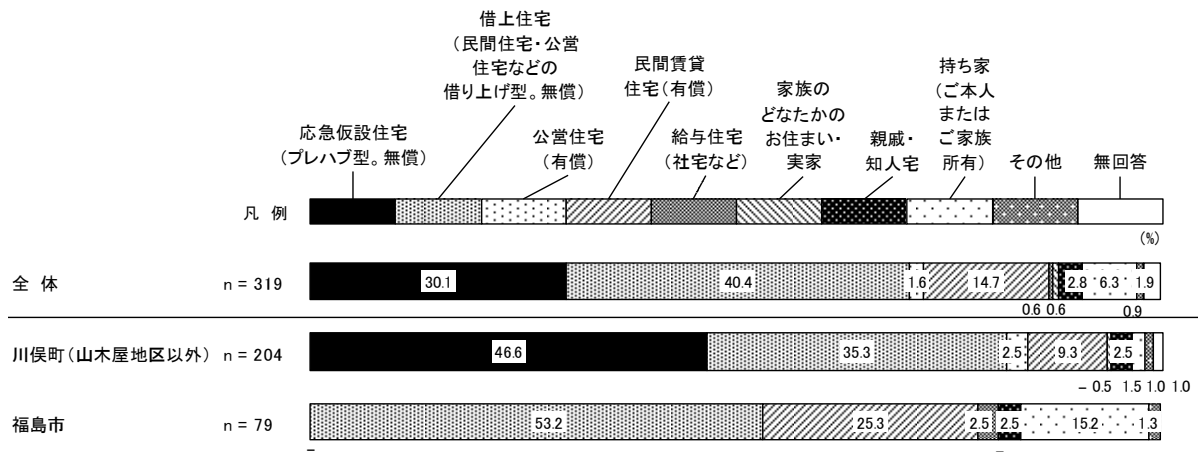
世帯人数別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は、世帯人数が多くなるにつれ割合が低くなり、「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」「民間賃貸住宅（有償）」は概ね世帯人数が多くなるほど割合が高くなる傾向にある。

<図表3-1-5-3 現在の住居形態（世帯人数別）>



主な避難先自治体別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は、川俣町（山木屋地区以外）（46.6%）が、「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は福島市（53.2%）が高くなっている。

<図表3-1-5-4 現在の住居形態（主な避難先自治体別）>



3-2 将来の意向

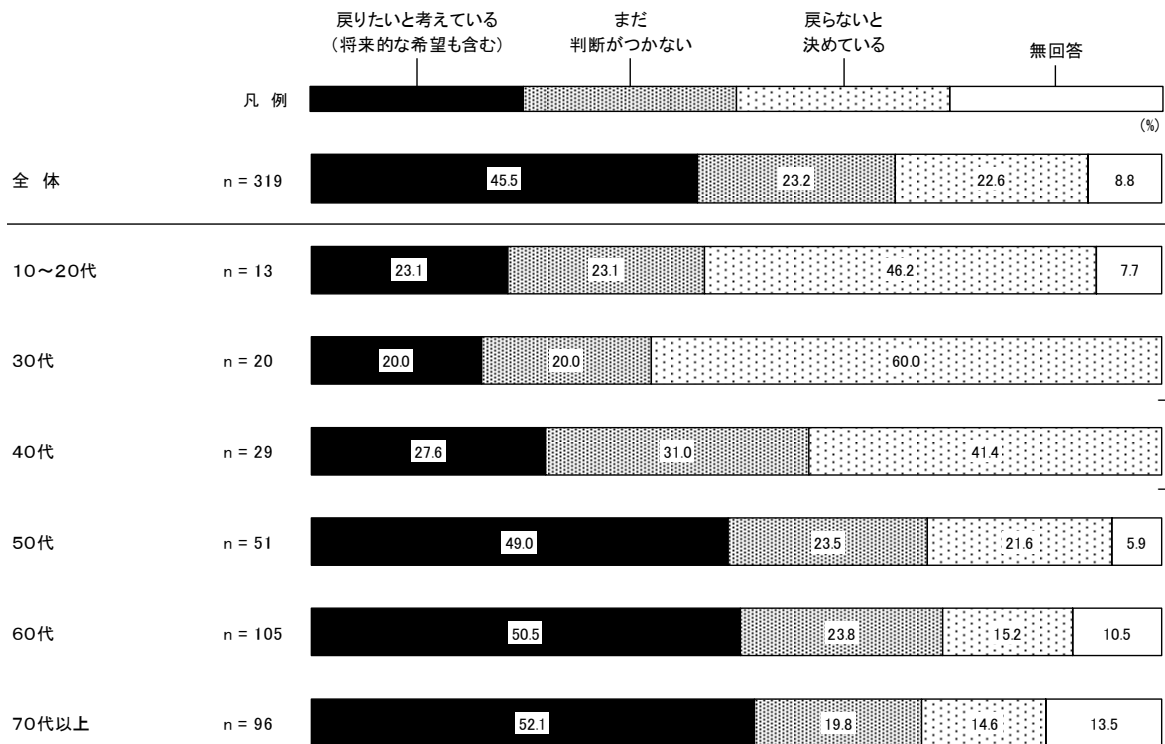
3-2-1 山木屋地区への帰還意向

問8 将来、山木屋地区の避難指示が解除された後の山木屋地区への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。(〇は1つ)

山木屋地区の避難指示が解除された後の帰還意向については、「戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」が45.5%と最も高く、次いで、「まだ判断がつかない」が23.2%、「戻らないと決めている」が22.6%となっている。

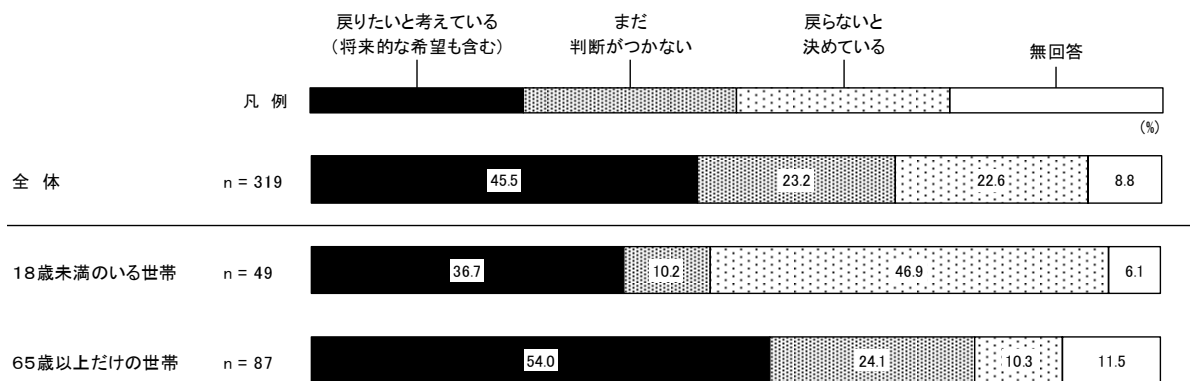
回答者の年齢別にみると、「戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」は、概ね年齢が高くなるほど割合が高くなっており、70代以上では52.1%となっている。一方、「戻らないと決めている」は、30代では60.0%と他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-2-1-1 山木屋地区への帰還意向(年齢別)>



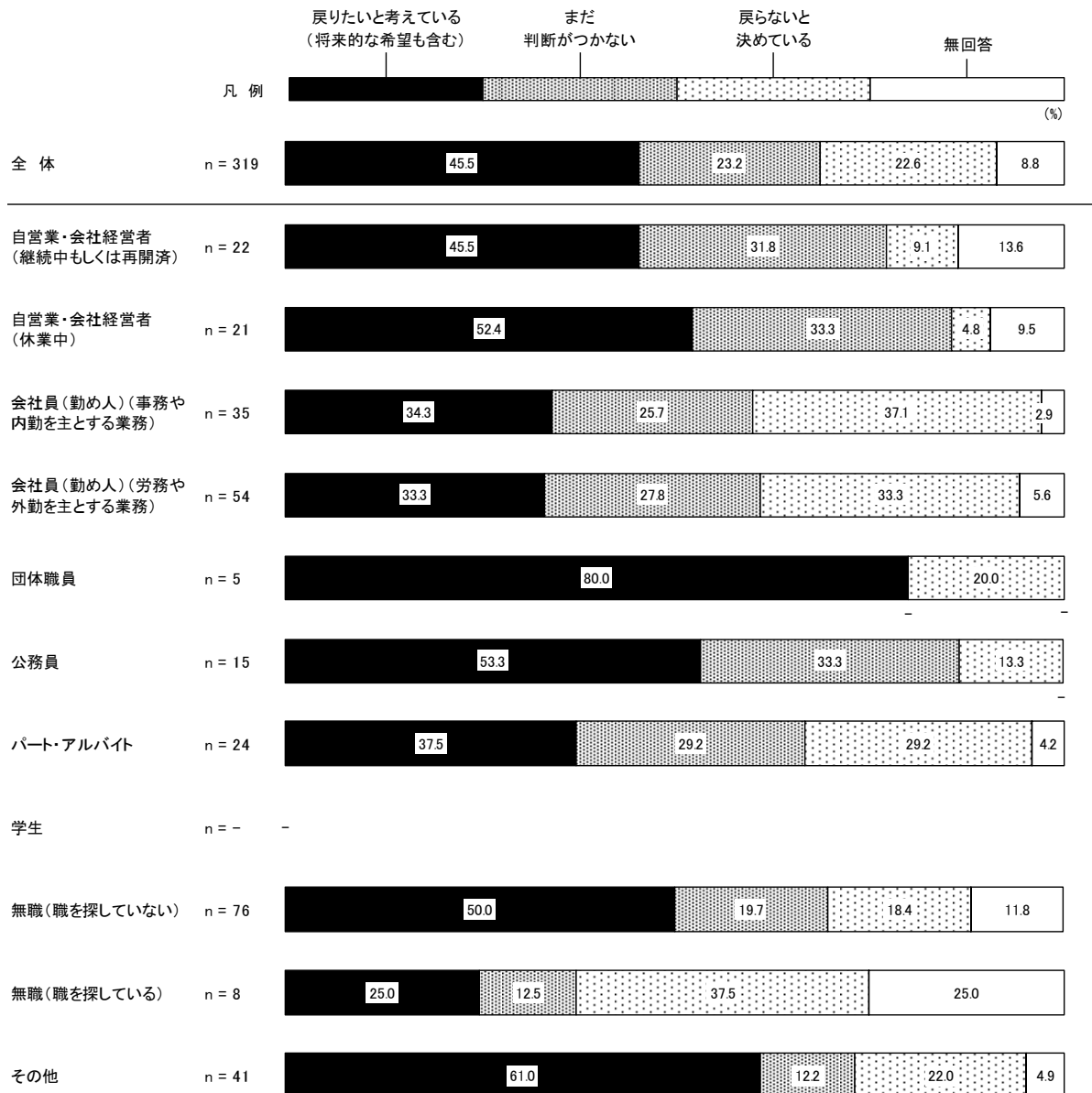
世帯構成別にみると、「戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」は、65歳以上だけの世帯では54.0%となっており、18歳未満のいる世帯と比べ高くなっている。一方、「戻らないと決めている」は、18歳未満のいる世帯で46.9%となっており、65歳以上だけの世帯に比べ高くなっている。

<図表3-2-1-2 山木屋地区への帰還意向(世帯構成別)>



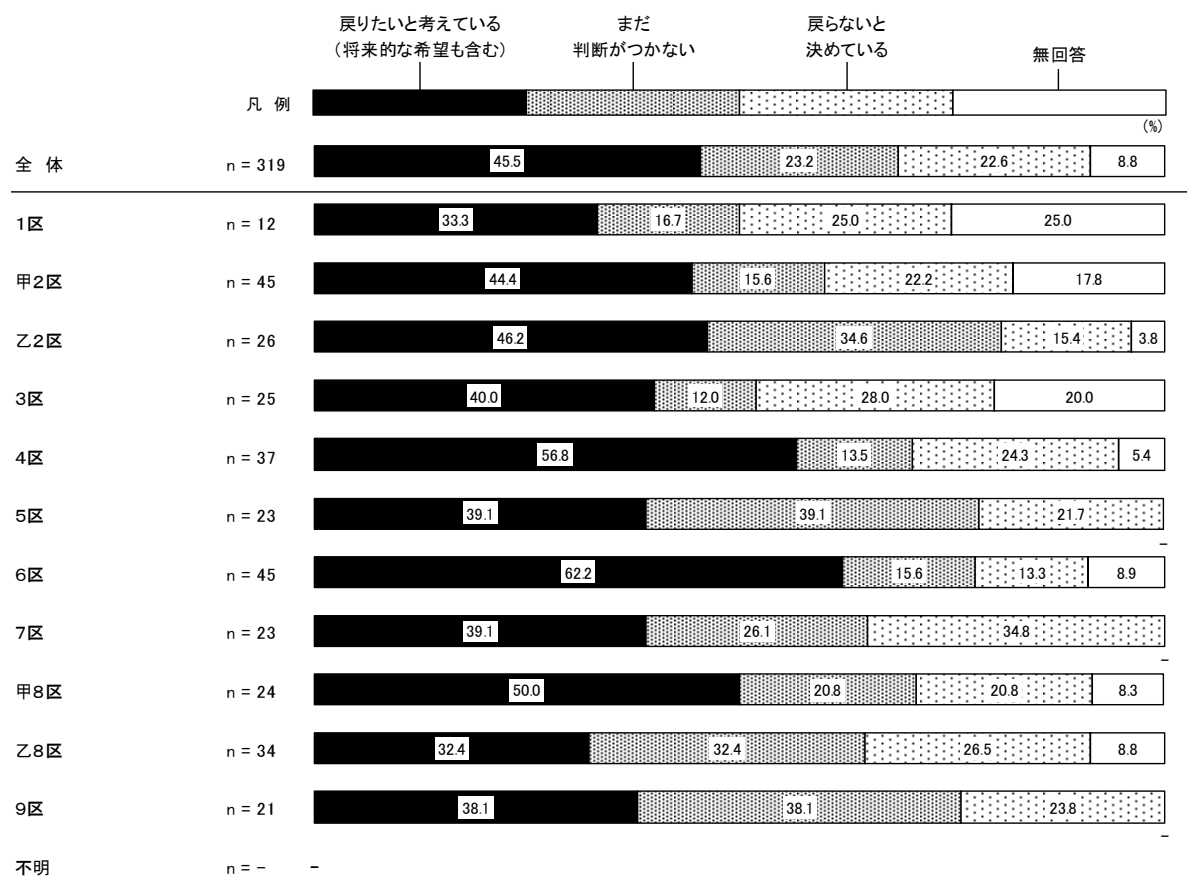
職業別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は、無職（職を探していない）が50.0%と高い。一方、「戻らないと決めている」は、会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）（37.1%）、会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）（33.3%）で高くなっている。

<図表3-2-1-3 山木屋地区への帰還意向（職業別）>



震災発生当時の行政区別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は、6区（62.2%）、4区（56.8%）、甲8区（50.0%）で過半数と高くなっている。

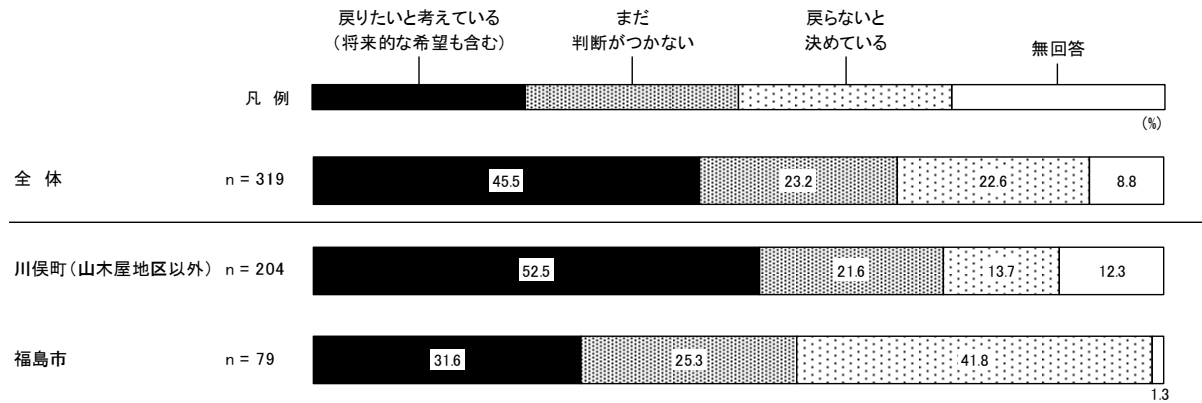
<図表3-2-1-4 山木屋地区への帰還意向（行政区別）>



III 調査結果

主な避難先自治体別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は、川俣町（山木屋地区以外）で52.5%となっており、他の避難先自治体に比べ高くなっている。一方、「戻らないと決めている」は福島市で41.8%と高い。

<図表3-2-1-5 山木屋地区への帰還意向（主な避難先自治体別）>



1.3

3-2-2 山木屋地区との“つながり”を保ちたいか

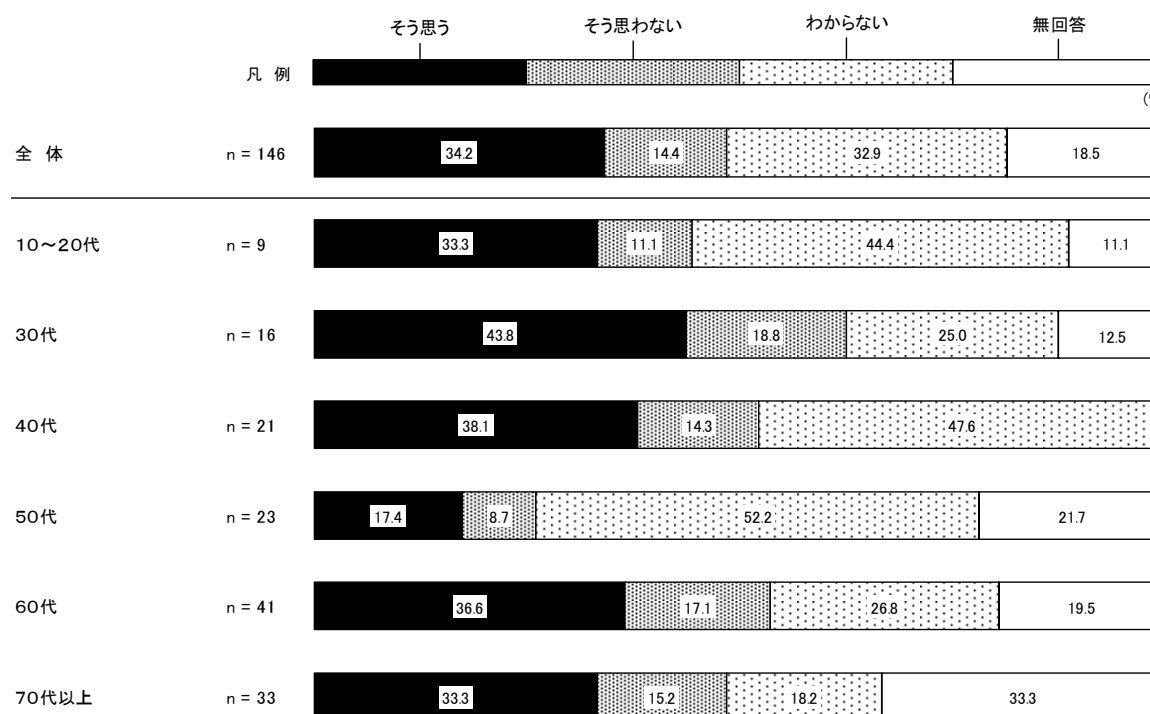
【山木屋地区への帰還について、まだ判断がつかない方、戻らないと決めている方（問8で「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問8-3 山木屋地区との“つながり”（例えば情報提供、地区行事、イベント等）を保ちたいと思いますか。（〇は1つ）

山木屋地区との“つながり”を保ちたいかについては、「そう思う」が34.2%、次いで「わからない」が32.9%、「そう思わない」が14.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「そう思う」は30代で43.8%と、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-2-2-1 山木屋地区との“つながり”を保ちたいか（年齢別）>

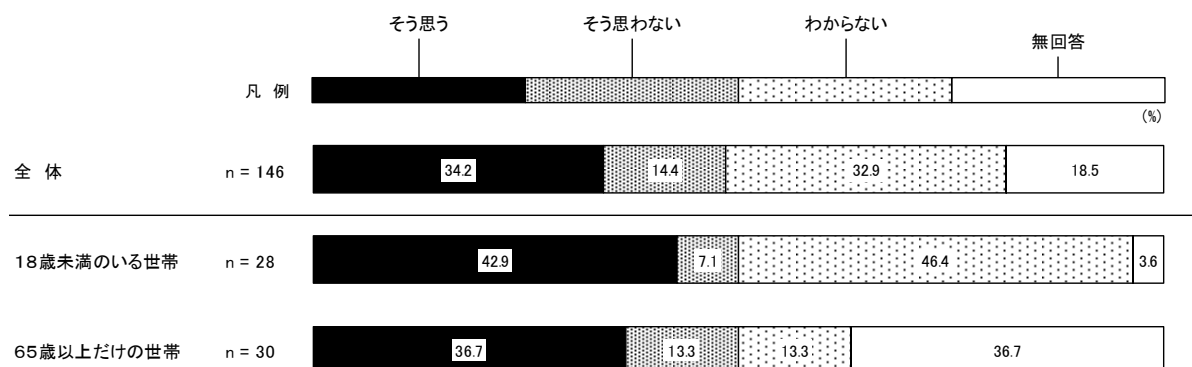


III 調査結果

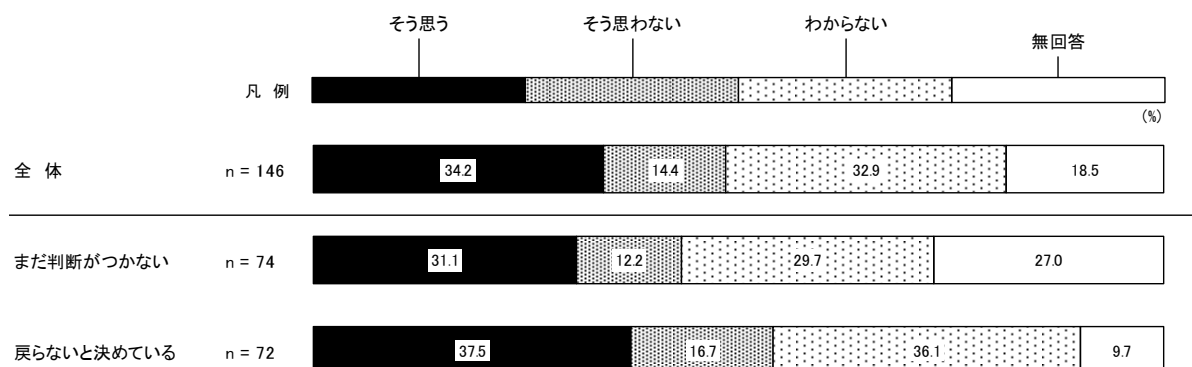
世帯構成別にみると、「そう思う」は18歳未満のいる世帯で42.9%と、65歳以上だけの世帯に比べ高い。

帰還意向別では、「そう思う」は戻らないと決めている世帯で37.5%とやや高い。

〈図表3-2-2-2 山木屋地区との“つながり”を保ちたいか（世帯構成別）〉



〈図表3-2-2-3 山木屋地区との“つながり”を保ちたいか（帰還意向別）〉



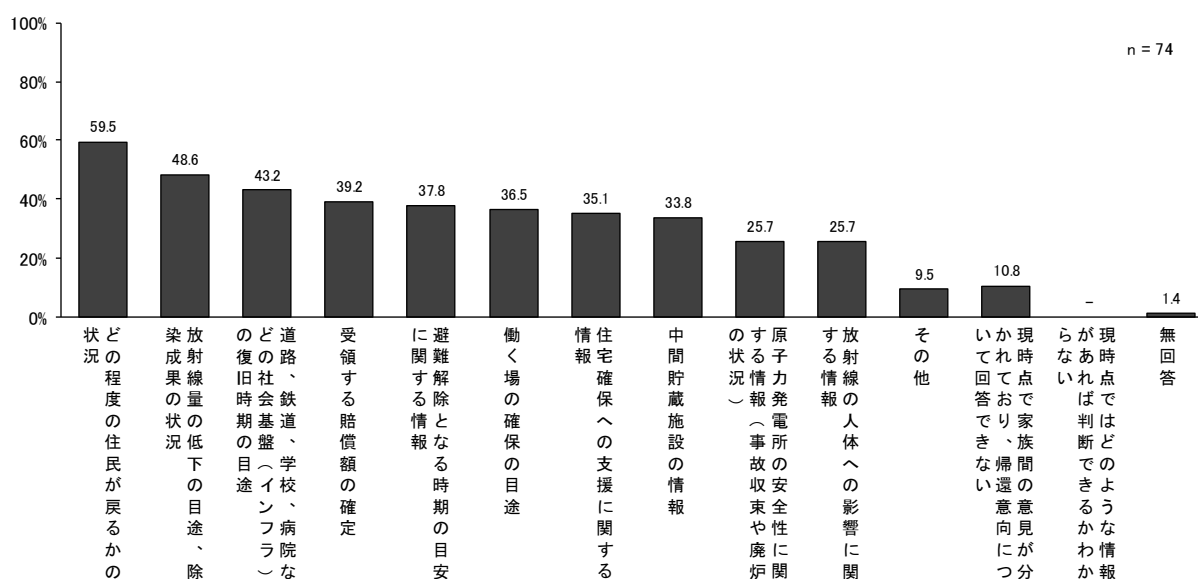
3-2-3 山木屋地区への帰還を判断する上で必要と思う情報

(1) 山木屋地区への帰還を判断する上で必要と思う情報

【山木屋地区への帰還について、まだ判断がつかない方（問8で「2」と回答した方）にうかがいます。】
 問8-2-1 山木屋地区へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。（〇はいくつでも）

山木屋地区への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「どの程度の住民が戻るかの状況」が59.5%と最も高く、次いで、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が48.6%、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が43.2%となっている。

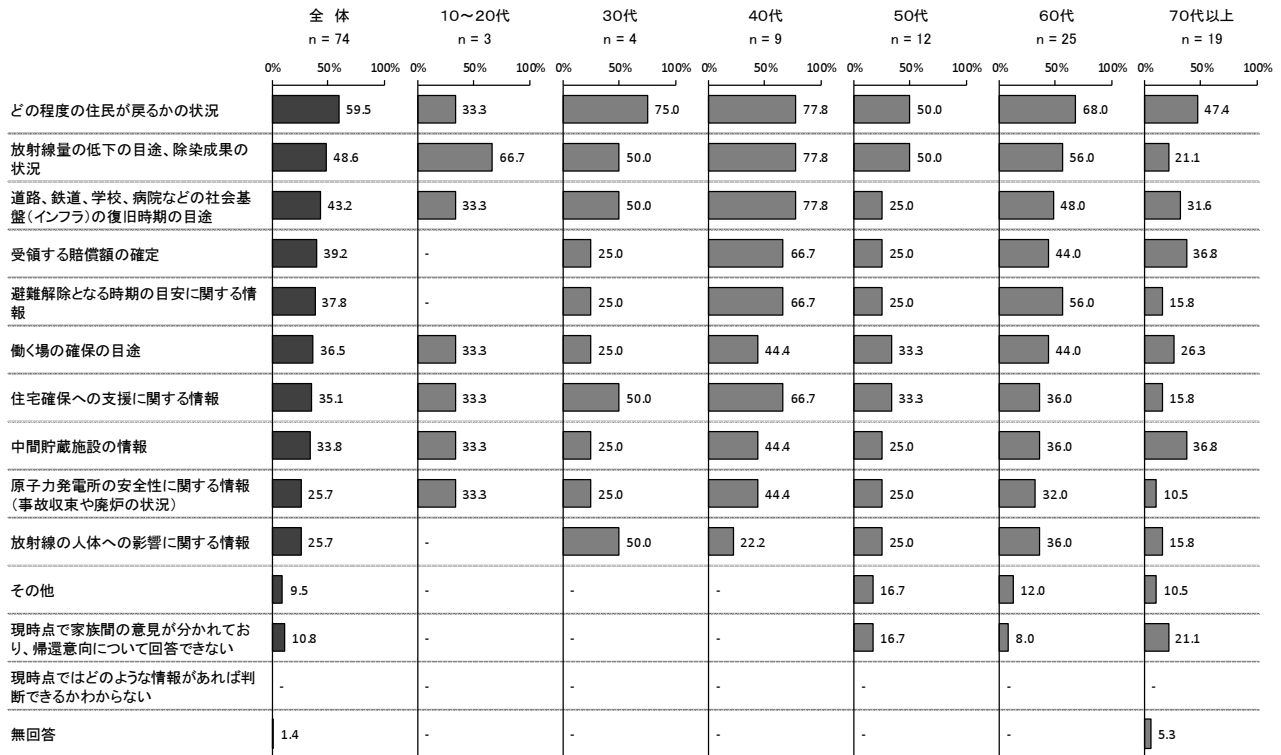
<図表3-2-3-1 山木屋地区への帰還を判断する上で必要と思う情報>



III 調査結果

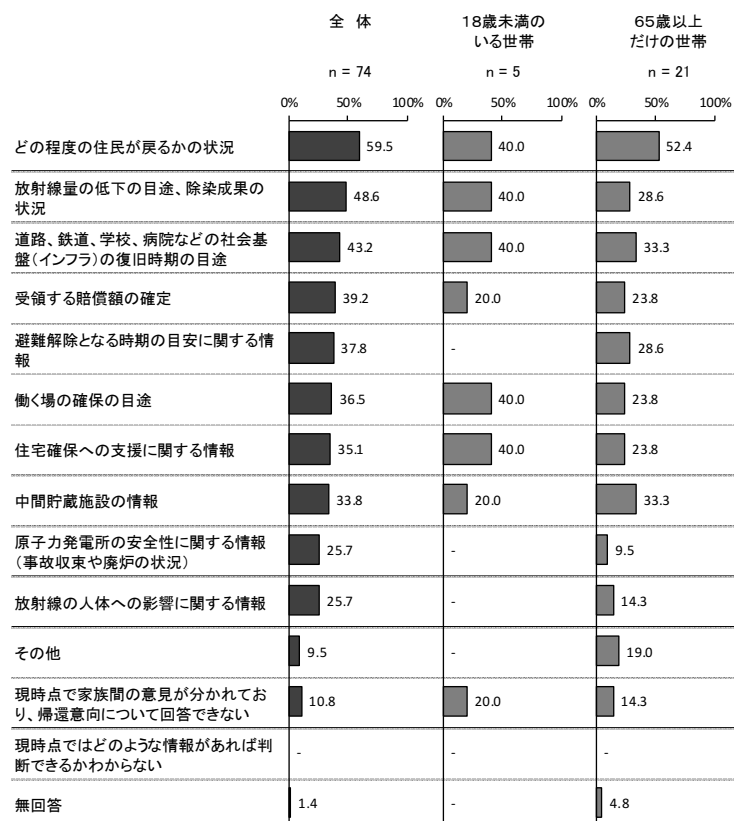
回答者の年齢別にみると、「どの程度の住民が戻るかの状況」は40代（77.8%）、30代（75.0%）、60代（68.0%）で7割前後と高くなっている。「住宅確保への支援に関する情報」は40代（66.7%）、30代（50.0%）、「避難解除となる時期の目安に関する情報」は40代（66.7%）、60代（56.0%）で高くなっている。

<図表3-2-3-2 山木屋地区への帰還を判断する上で必要と思う情報（年齢別）>



世帯構成別にみると、「どの程度の住民が戻るかの状況」は 65 歳以上だけの世帯（52.4%）と 18 歳未満のいる世帯に比べ高くなっている。

<図表 3-2-3-3 山木屋地区への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯構成別）>

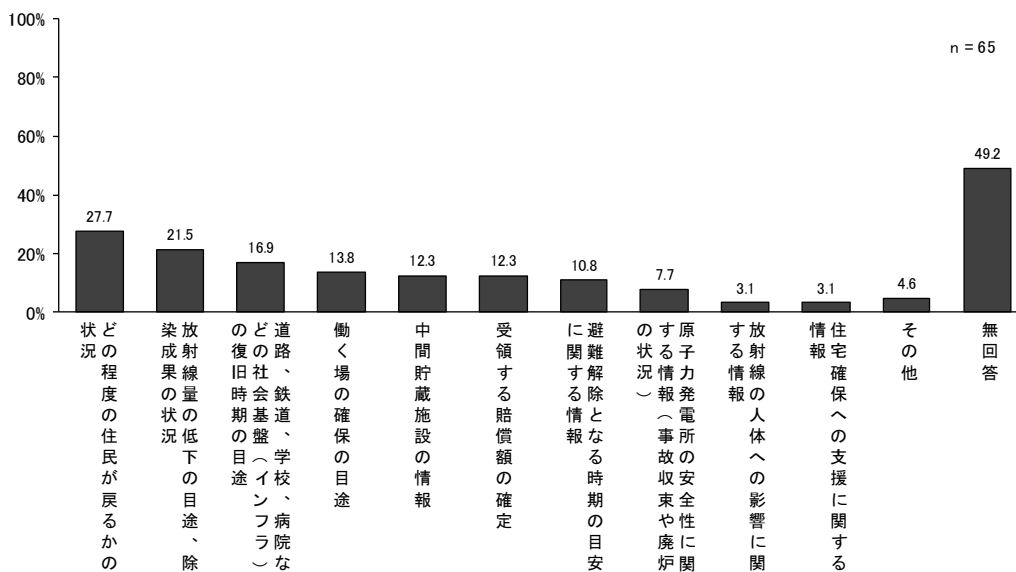


(2) 山木屋地区への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの

【山木屋地区への帰還について、まだ判断がつかない方（問8で「2」と回答した方）にうかがいます。】
 問8-2-2 上記「1」から「11」で重視したいことを3つまで選び、その条件を教えてください。

山木屋地区への帰還を判断する上で必要と思う情報（問8-2-1）のうち、重視したいものについては、「どの程度の住民が戻るかの状況」が27.7%と最も高く、次いで「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が21.5%、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が16.9%となっている。

<図表3-2-3-4 山木屋地区への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの（3つまで）>



上位項目の主な意見は、以下のとおり。

【どの程度の住民が戻るかの状況】

- 部落で何名の方が戻るか。6割位戻るとき。(60代)
- 地域住民がどの程度戻り、コミュニティが形成されるか。(60代)
- 震災前と同じ位に人口が戻るのか。(30代)
- 自分だけが戻ってもどうしようもないと思う。(40代)

【放射線量の低下の目途、除染成果の状況】

- 居久根の除染をしなければ放射線量は低下しない。敷地の除染を一部残しているが判断に苦しむ。(70代以上)
- 除染も「完全」にできるものではないので、線量が心配。(40代)
- いまだ、農地・森林の除染が終了していないので。(60代)
- あまり変わっているように思わないから。(50代)

【道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途】

- 生活が成り立つレベルにならなければ戻れない。(40代)
- 公共交通機関が以前より良くなるか。(30代)
- インフラ。今までは沢水を使用していたが、不安で使えない。(40代)
- インフラがどこまで戻るか。(40代)

3-2-4 山木屋地区への帰還時期

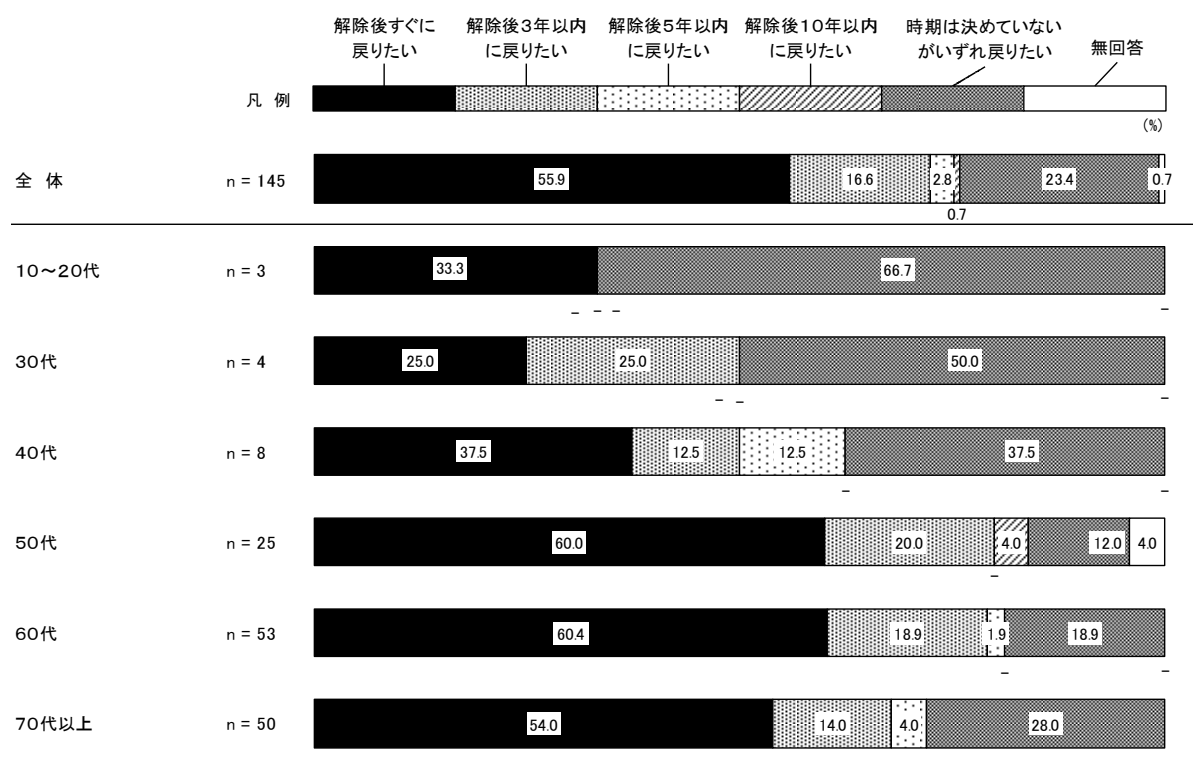
【山木屋地区への帰還について、戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）方（問8で「1」と回答した方）にうかがいます。】

問8-1-1 山木屋地区へ戻る時期を教えてください。（〇は1つ）

山木屋地区への帰還時期については、「解除後すぐに戻りたい」が55.9%と最も高く、次いで「時期は決めていないがいずれ戻りたい」は23.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「解除後すぐに戻りたい」は、60代（60.4%）、50代（60.0%）で6割以上と他の年齢と比べ高くなっている。

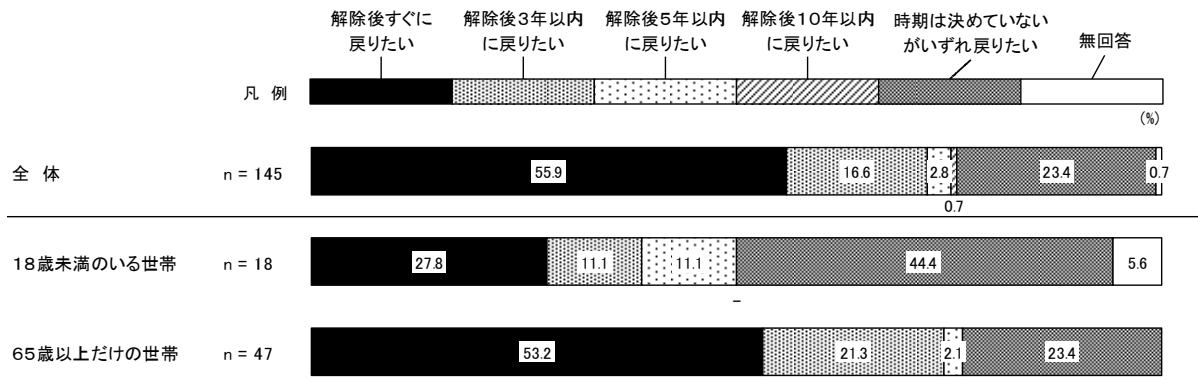
＜図表3-2-4-1 山木屋地区への帰還時期（年齢別）＞



Ⅲ 調査結果

世帯構成別にみると、「解除後すぐに戻りたい」は65歳以上だけの世帯が53.2%と18歳未満のいる世帯と比べ高くなっている。一方、18歳未満のいる世帯は「時期は決めていないがいずれ戻りたい」が44.4%と65歳以上だけの世帯に比べ高い。

＜図表3-2-4-2 山木屋地区への帰還時期（世帯構成別）＞



3-2-5 山木屋地区へ戻る場合の家族

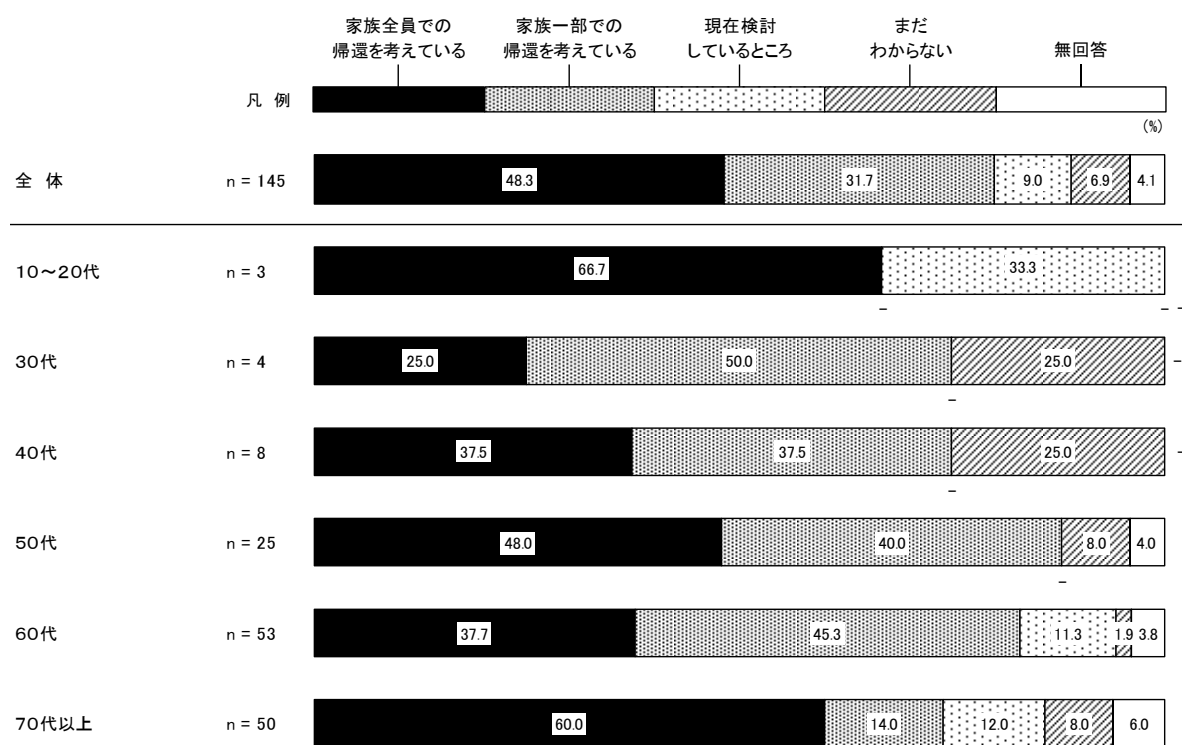
【山木屋地区への帰還について、戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）方（問8で「1」と回答した方）にうかがいます。】

問8-1-2 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。（〇は1つ）

山木屋地区へ戻る場合の家族については、「家族全員での帰還を考えている」が48.3%と最も高く、次いで「家族一部での帰還を考えている」が31.7%、「現在検討しているところ」と「まだわからない」が合わせて15.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は、10～20代(66.7%)、70代以上(60.0%)が他の年齢に比べて高くなっている。

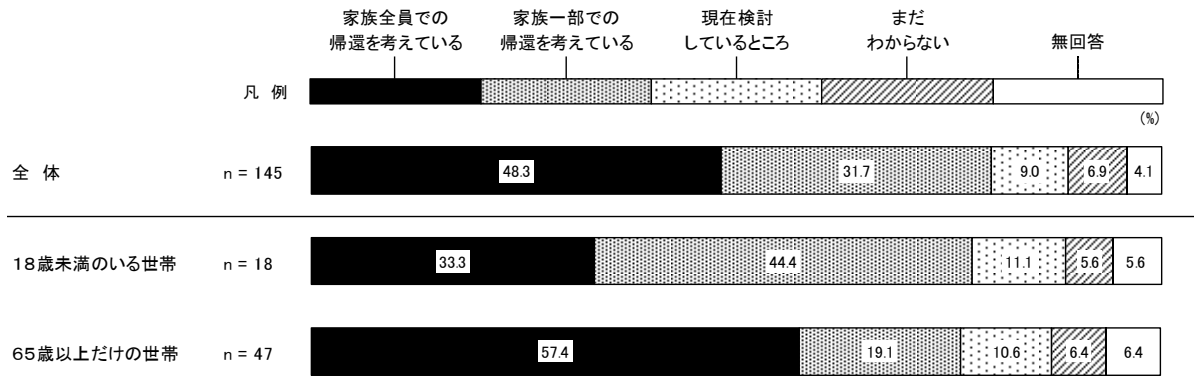
<図表3-2-5-1 山木屋地区へ戻る場合の家族（年齢別）>



III 調査結果

世帯構成別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は、65歳以上だけの世帯が57.4%と過半数を占めている。一方、「家族一部での帰還を考えている」は18歳未満のいる世帯で44.4%となっており、65歳以上だけの世帯に比べ高くなっている。

<図表3-2-5-2 山木屋地区へ戻る場合の家族（世帯構成別）>



3-2-6 帰還する場合に希望する住居形態

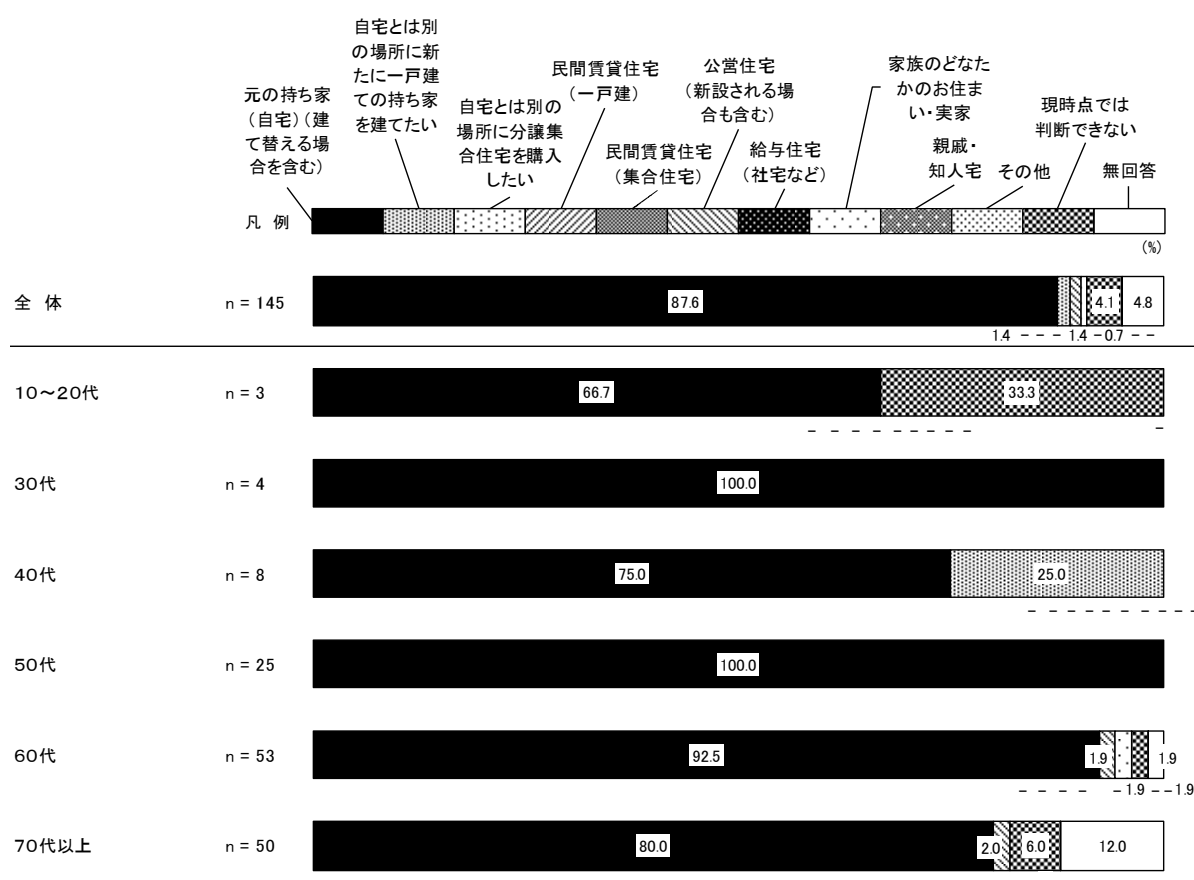
【問8で「1.戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問8-4 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。（〇は1つ）

山木屋地区へ帰還する場合に希望する住居形態については、「元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)」が87.6%と最も高く、9割弱となっている。

回答者の年齢別にみると、「元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)」はすべての年代で6割以上と高くなっている。

<図表3-2-6-1 帰還する場合に希望する住居形態（年齢別）>

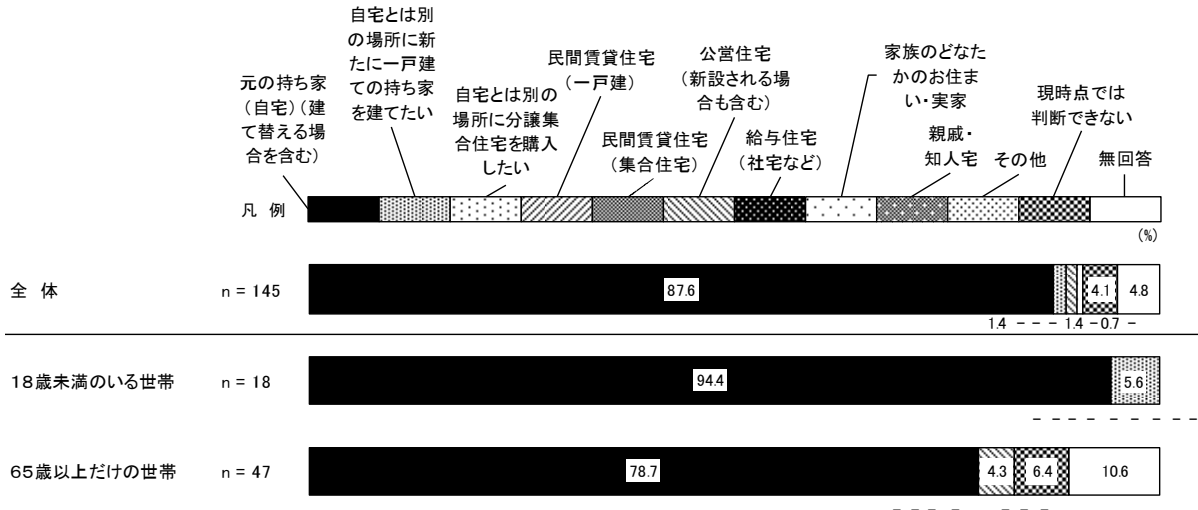


III 調査結果

世帯構成別にみると、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」は18歳未満のいる世帯で94.4%と、65歳以上だけの世帯に比べ高くなっている。

震災発生当時の居住行政区別にみると、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」はすべての行政区で6割以上となっている。

<図表3-2-6-2 帰還する場合に希望する住居形態（世帯構成別）>



<図表3-2-6-3 帰還する場合に希望する住居形態（行政区別）>

	n	元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）	自宅とは別の場所に新たに戸建ての持ち家を建てたい	自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい	民間賃貸住宅（一戸建）	民間賃貸住宅（集合住宅）	公営住宅（新設される場合も含む）	給与住宅（社宅など）	家族のどなたかのお住まい・実家	親戚・知人宅	その他	現時点では判断できない	無回答
全体	145	87.6	1.4	-	-	-	1.4	-	0.7	-	-	4.1	4.8
1区	4	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
甲2区	20	80.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.0	15.0
乙2区	12	83.3	-	-	-	-	-	-	8.3	-	-	8.3	-
3区	10	90.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10.0	-
4区	21	85.7	-	-	-	-	4.8	-	-	-	-	4.8	4.8
5区	9	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3
6区	28	92.9	3.6	-	-	-	3.6	-	-	-	-	-	-
7区	9	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
甲8区	12	83.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7	-
乙8区	11	90.9	9.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9区	8	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

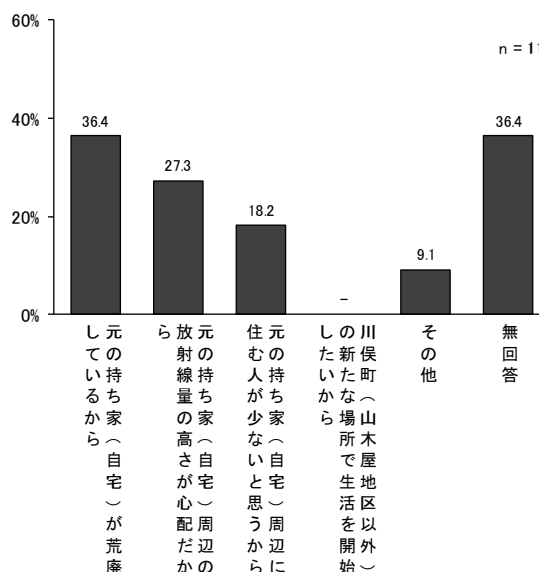
3-2-7 元の持ち家以外を希望する理由

【問8-4で「2」から「11」と回答した方にうかがいます。】

問8-5 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。(〇はいくつでも)

山木屋地区へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「元の持ち家（自宅）が荒廃しているから」が36.4%と最も高く、次いで「元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから」が27.3%、「元の持ち家（自宅）周辺に住む人が少ないと思うから」が18.2%となっている。

<図表3-2-7-1 元の持ち家以外を希望する理由>



※本問はn値が少ないため、参考値程度とする

<図表3-2-7-2 元の持ち家以外を希望する理由（行政区別）>

	n	元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから (%)	元の持ち家（自宅）周辺に住む人が少ないと思うから (%)	川俣町（山木屋地区）以外から新たな場所での生活を開始したいから (%)	元の持ち家（自宅）が荒廃しているから (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体	11	27.3	18.2	-	36.4	9.1	36.4
1区	-	-	-	-	-	-	-
甲2区	1	100.0	-	-	100.0	-	-
乙2区	2	-	-	-	-	-	100.0
3区	1	-	-	-	-	-	100.0
4区	2	-	50.0	-	100.0	-	-
5区	-	-	-	-	-	-	-
6区	2	50.0	-	-	-	50.0	50.0
7区	-	-	-	-	-	-	-
甲8区	2	-	50.0	-	50.0	-	-
乙8区	1	100.0	-	-	-	-	-
9区	-	-	-	-	-	-	-
不明	-	-	-	-	-	-	-

※本問はn値が少ないため、参考値程度とする

3-2-8 山木屋地区へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援

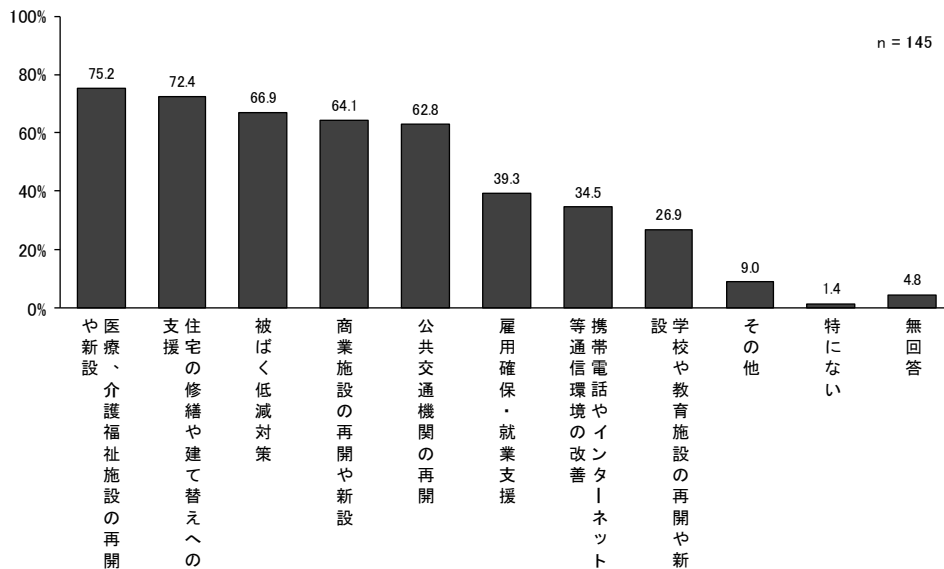
【問8で「1.戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問8-6 山木屋地区に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。(〇はいくつでも)

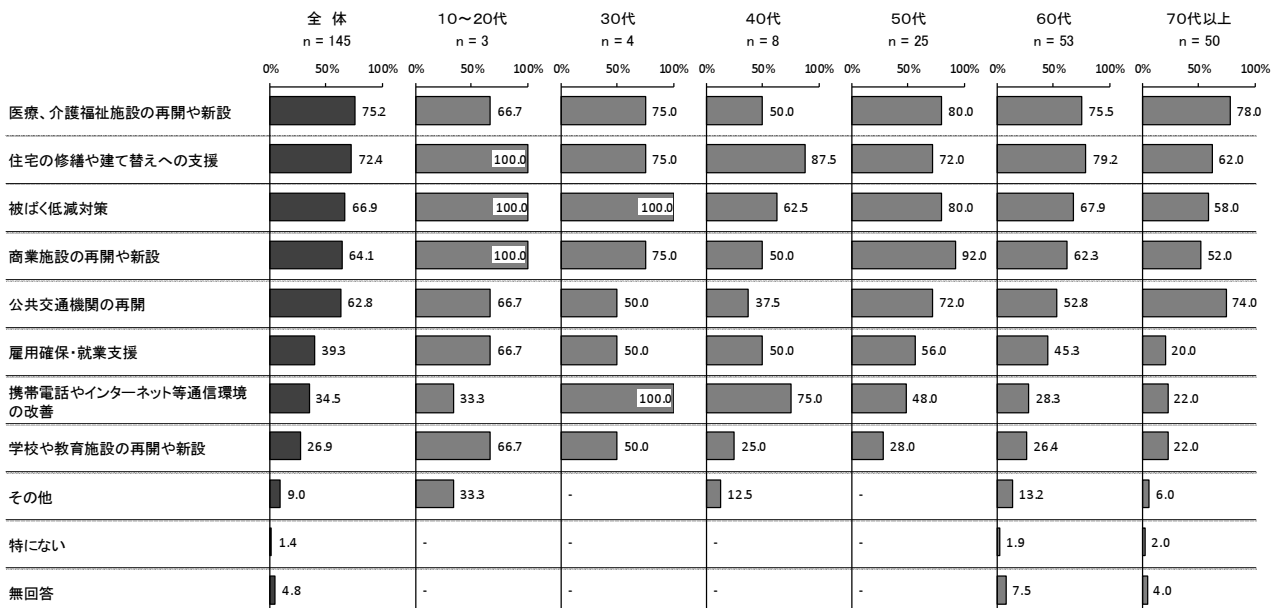
山木屋地区へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援については、「医療、介護福祉施設の再開や新設」が75.2%と最も高く、次いで「住宅の修繕や建て替えへの支援」が72.4%、「被ばく低減対策」が66.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「商業施設の再開や新設」は10~20代(100.0%)、50代(92.0%)で9割以上となっている。50代、70代以上では「公共交通機関の再開」(70代以上で74.0%、50代で72.0%)、30代、40代では「携帯電話やインターネット等通信環境の改善」(30代で100.0%、40代で75.0%)が他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-2-8-1 山木屋地区へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援>

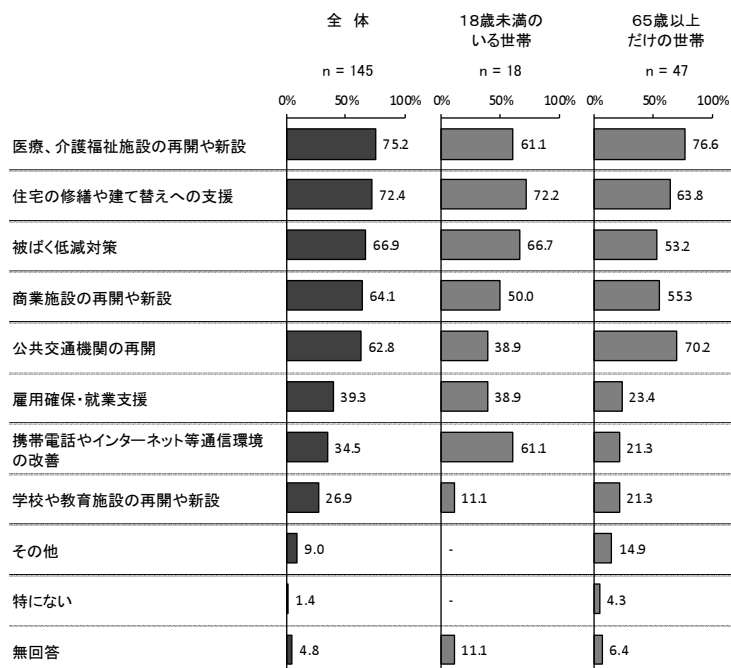


<図表3-2-8-2 山木屋地区へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では、「住宅の修繕や建て替えへの支援」(72.2%)、「被ばく低減対策」(66.7%)、「携帯電話やインターネット等通信環境の改善」(61.1%)が高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では、「医療、介護福祉施設の再開や新設」(76.6%)、「公共交通機関の再開」(70.2%)が高くなっている。

＜図表3-2-8-3 山木屋地区へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（世帯構成別）＞



3-2-9 現時点で戻らないと決めている理由

【問8で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

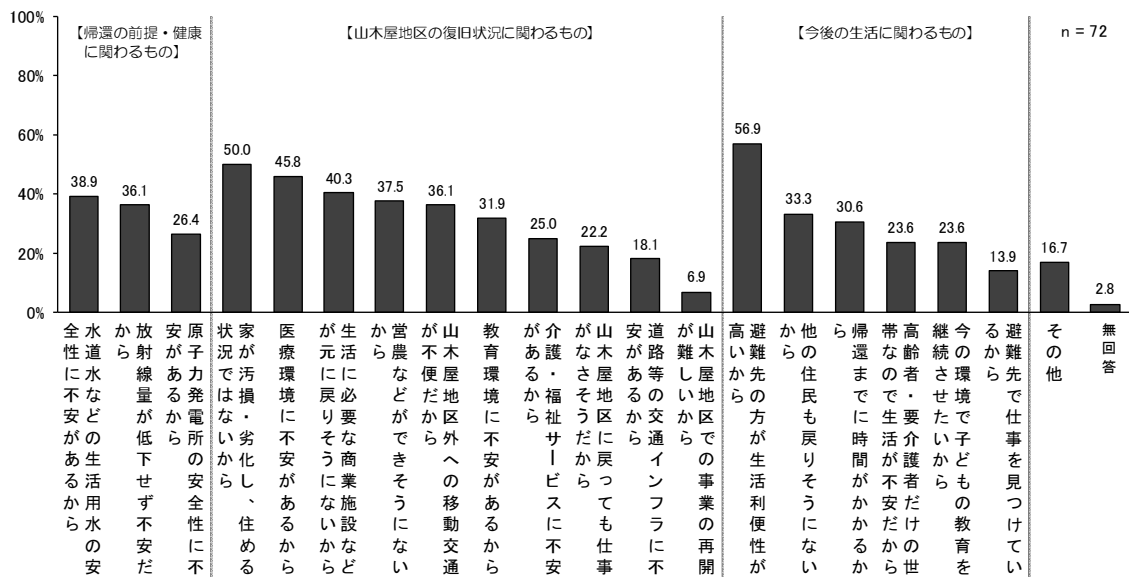
問8-7 戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

現時点で戻らないと決めている理由については、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が38.9%と最も高く、次いで「放射線量が低下せず不安だから」が36.1%、「原子力発電所の安全性に不安があるから」が26.4%となっている。

【山木屋地区の復旧状況に関わるもの】については、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」が50.0%と最も高く、次いで「医療環境に不安があるから」が45.8%、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が40.3%となっている。

【今後の生活に関わるもの】については、「避難先の方が生活利便性が高いから」が56.9%と最も高く、次いで「他の住民も戻りそうにないから」が33.3%、「帰還までに時間がかかるから」が30.6%となっている。

＜図表3-2-9-1 現時点で戻らないと決めている理由＞

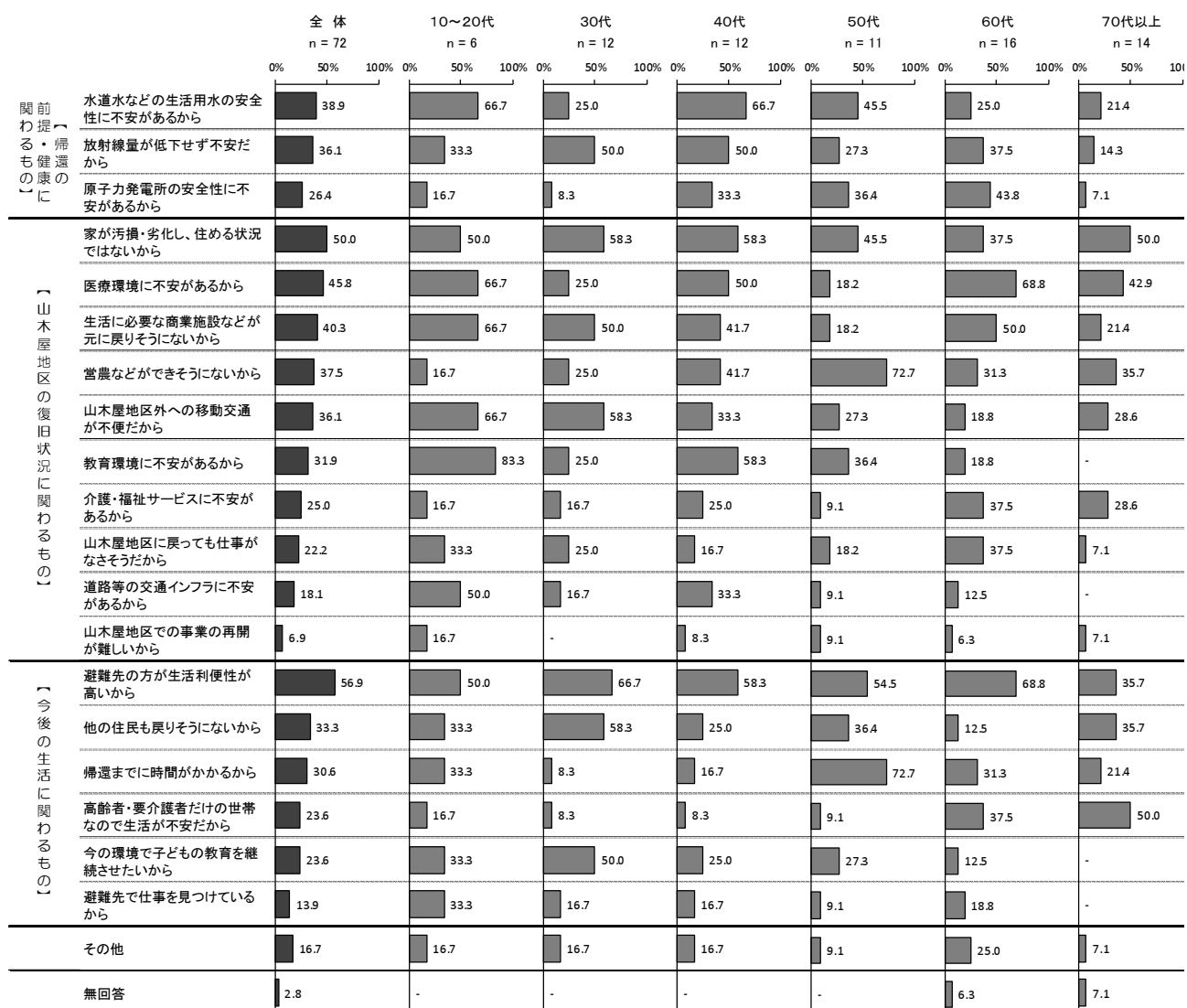


回答者の年齢別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」は10～20代、40代（ともに66.7%）、「放射線量が低下せず不安だから」は30代、40代（ともに50.0%）で過半数と、他の年齢と比べ高くなっている。

【山木屋地区の復旧状況に関わるもの】については、「医療環境に不安があるから」は、60代（68.8%）、10～20代（66.7%）、「営農などができそうにないから」は、50代（72.7%）、「教育環境に不安があるから」は10～20代（83.3%）で他の年齢と比べ高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】については、「他の住民も戻りそうにないから」は30代（58.3%）、「帰還までに時間がかかるから」は50代（72.7%）、「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」は70代以上（50.0%）、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は30代（50.0%）で他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-9-2 現時点で戻らないと決めている理由（年齢別）>



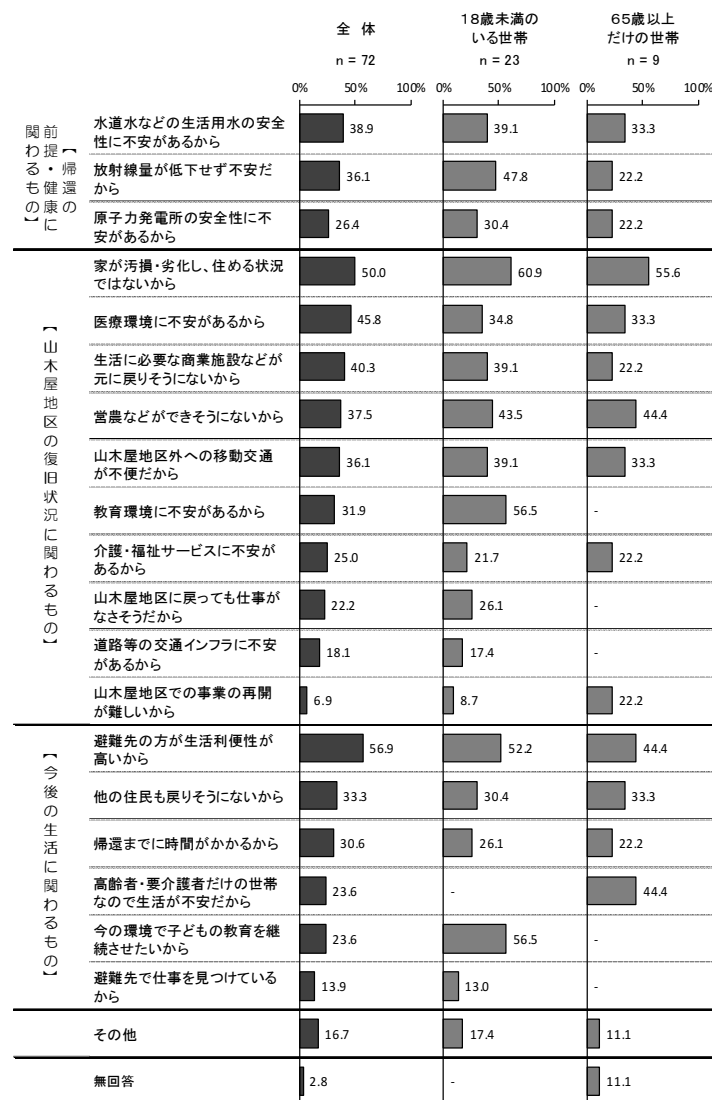
III 調査結果

世帯構成別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「放射線量が低下せず不安だから」は18歳未満のいる世帯で47.8%と約半数を占めており、65歳以上だけの世帯に比べ高くなっている。

【山木屋地区の復旧状況に関わるもの】については、18歳未満のいる世帯で「教育環境に不安があるから」(56.5%)が、65歳以上だけの世帯に比べ高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】については、「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」は、65歳以上だけの世帯(44.4%)、「避難先の方が生活利便性が高いから」(52.2%)「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」(56.5%)は、18歳未満のいる世帯が高くなっている。

<図表3-2-9-3 現時点で戻らないと決めている理由(世帯構成別)>



3-2-10 帰還しない場合に居住したい主な自治体

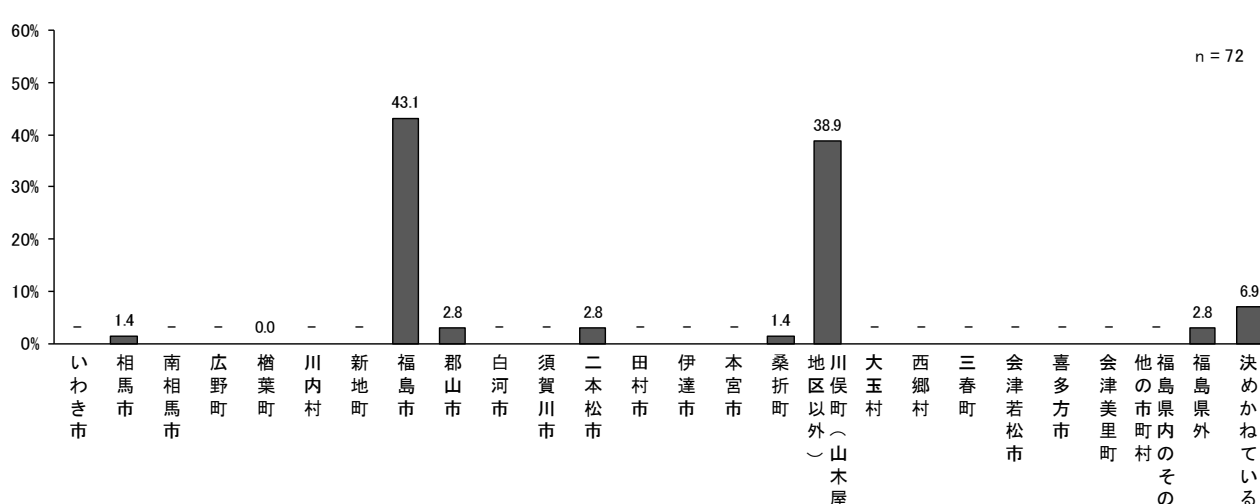
【問8で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問8-8 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。(○は1つ)

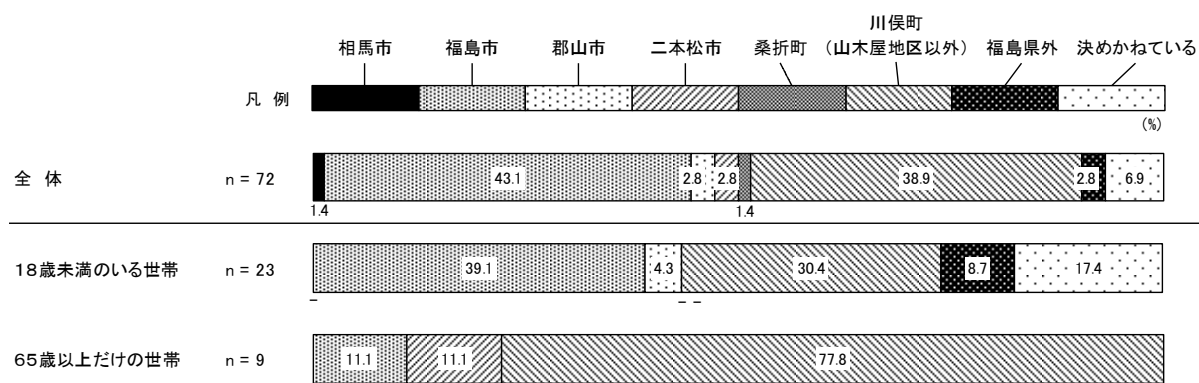
山木屋地区へ帰還しない場合に居住したい自治体については、「福島市」が43.1%と最も高く、次いで「川俣町(山木屋地区以外)」(38.9%)となっている。

世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「福島市」(39.1%)、65歳以上だけの世帯では「川俣町(山木屋地区以外)」(77.8%)が最も高くなっている。

<図表3-2-10-1 帰還しない場合に居住したい主な自治体>



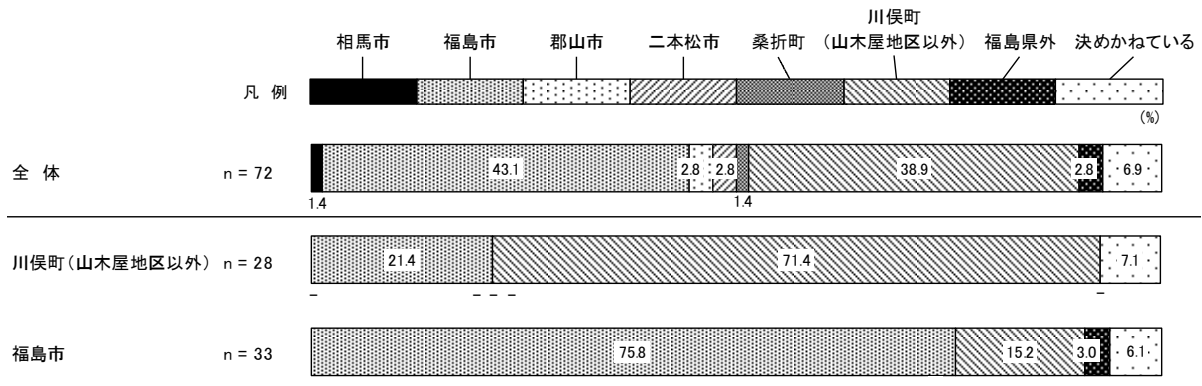
<図表3-2-10-2 帰還しない場合に居住したい主な自治体(世帯構成別)>



III 調査結果

現在の主な避難先自治体別にみると、いずれの自治体も避難先での居住を希望する割合が最も高く、川俣町（山木屋地区以外）、福島市ともに7割以上が避難先自治体での継続居住を希望している。

＜図表3-2-10-3 帰還しない場合に居住したい主な自治体（主な避難先自治体別）＞



3-2-11 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態

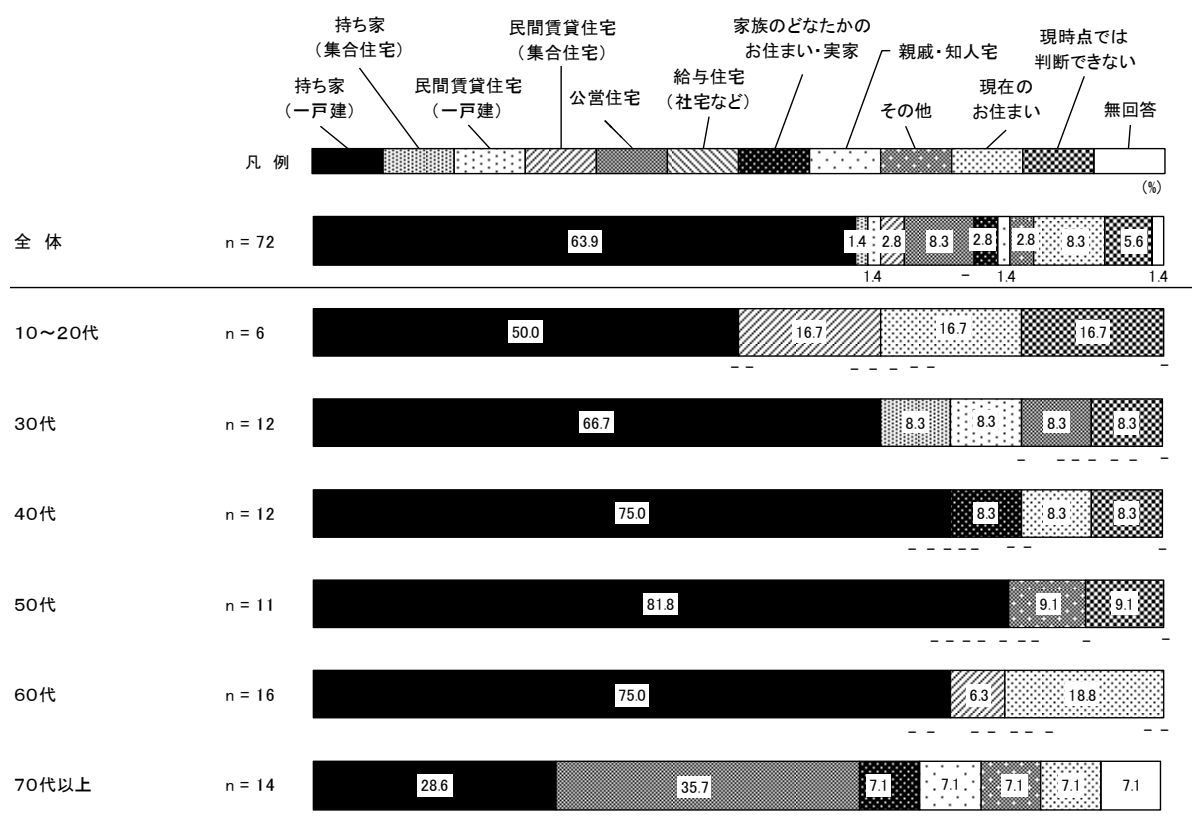
【問8で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問8-9 帰還しない場合に、今後のお住まいとして、希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

山木屋地区へ帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が63.9%と最も高く、次いで「公営住宅」が8.3%、「現時点では判断できない」が8.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は、50代が81.8%、40代、60代がともに75.0%となっている。「公営住宅」は、70代以上が35.7%となっている。

＜図表3-2-11-1 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態（年齢別）＞



3-2-12 山木屋地区へ戻らない場合の今後の生活において必要な支援

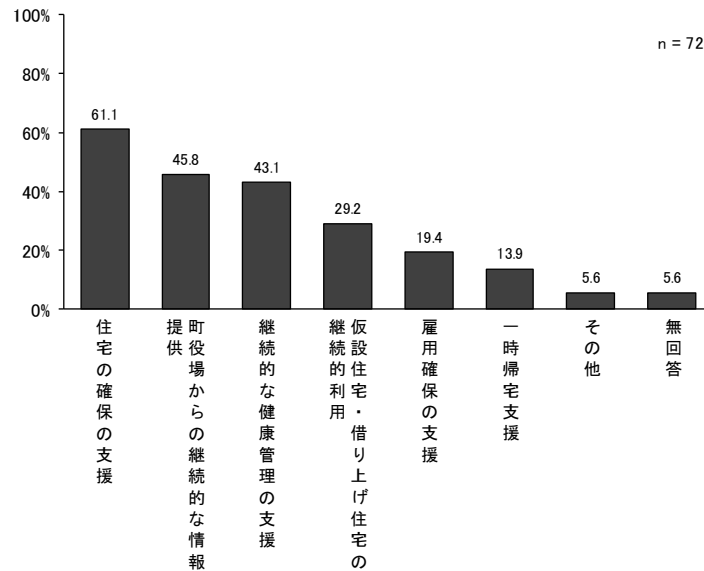
【問8で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問8-10 震災および原発事故当時に居住されていた山木屋地区に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

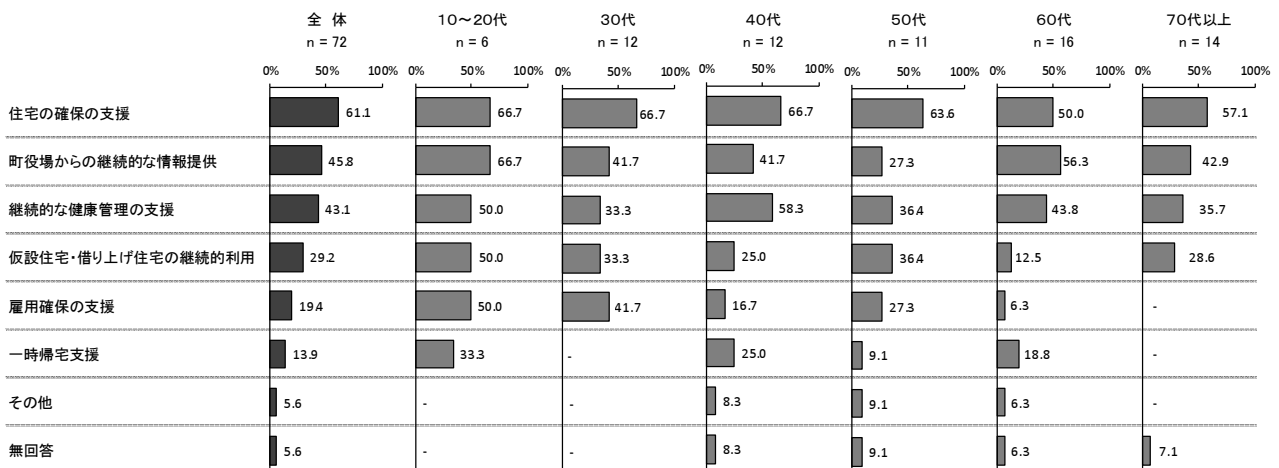
山木屋地区へ戻らない場合の今後の生活において必要な支援については、「住宅の確保の支援」が61.1%と最も高く、次いで「町役場からの継続的な情報提供」が45.8%、「継続的な健康管理の支援」が43.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、「町役場からの継続的な情報提供」は10~20代(66.7%)、60代(56.3%)、「雇用確保の支援」は10~20代(50.0%)、30代(41.7%)、「継続的な健康管理の支援」は40代(58.3%)が他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-2-12-1 山木屋地区へ戻らない場合の今後の生活において必要な支援>

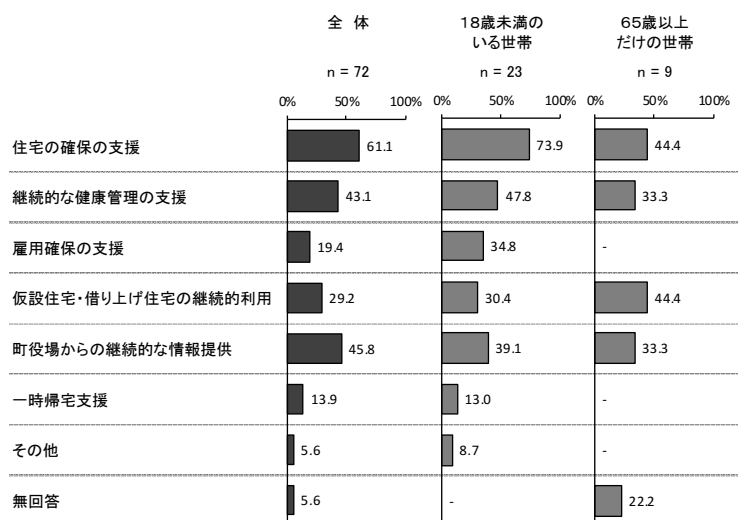


<図表3-2-12-2 山木屋地区へ戻らない場合の今後の生活において必要な支援(年齢別)>



世帯構成別にみても、「住宅の確保の支援」がすべての世帯構成で最も高くなっている。「雇用確保の支援」は18歳未満のいる世帯で34.8%と65歳以上だけの世帯に比べ高くなっている。

<図表3-2-12-3 山木屋地区へ戻らない場合の今後の生活において必要な支援（世帯構成別）>



3-3 意見・要望

問9 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、161世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにについてのおきらめ ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の意義について ・除染作業にかかる費用の他への活用について ・除染作業の効果などについて ・除染作業の実施箇所などについて ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュールの明確化について ・中間貯蔵施設について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地などの管理・処分について ・元の住居や土地に対する税について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興のスケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について ・所有する住まい・土地に対する賠償全般について ・その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・廃炉作業全般について ・その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・現時点では帰還の判断ができない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅への入居がどうかの不安 ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・住宅の購入について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

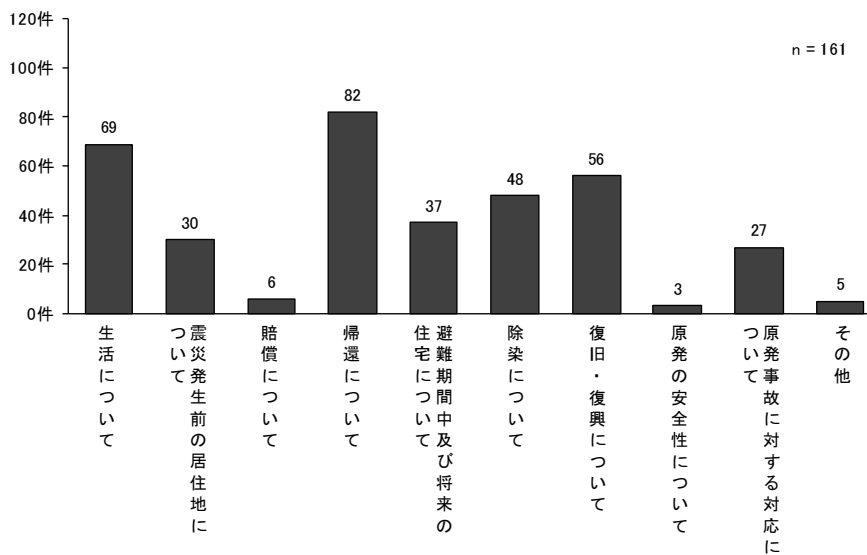
※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「帰還について」が82件と最も多く、次いで「生活について」が69件、「復旧・復興について」が56件などとなっている。

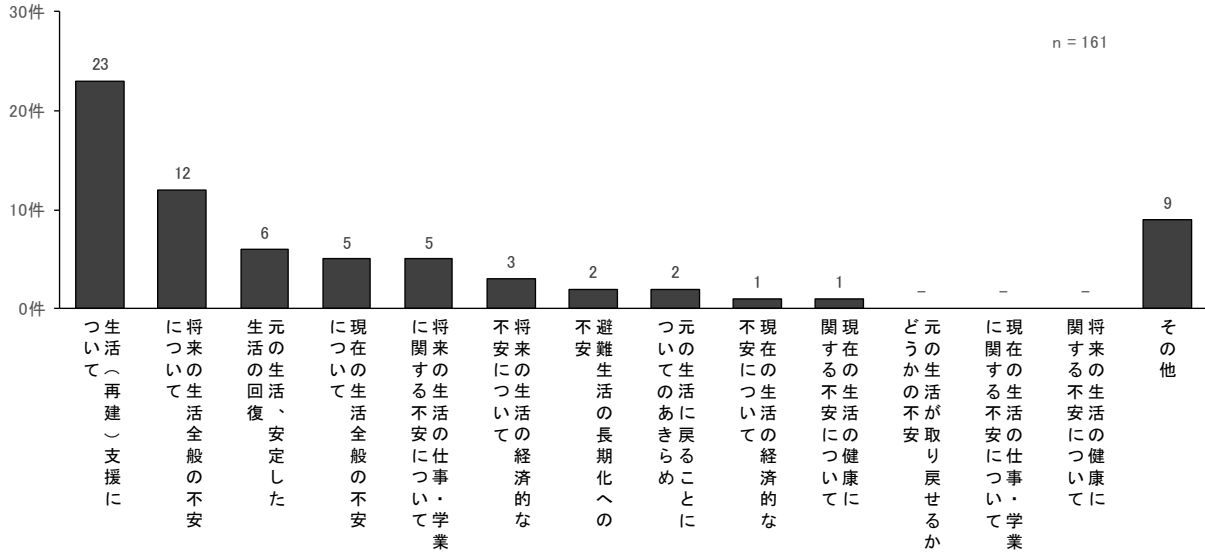
<図表3-3-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「生活（再建）支援について」が23件と最も多く、次いで「将来の生活全般の不安について」が12件、「元の生活、安定した生活の回復」が6件などとなっている。

<図表3-3-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【生活（再建）支援について】

- 早く安心して、家族団らんができる環境、落ち着いて学校や職場に通える環境を整えられる様、援助願います。（40代）
- 被災者の医療費免除は避難解除後も続けるべき。（40代）
- 小さな子どもや赤ちゃんなどのいる家庭のための援助をお願いします。（10～20代）

【将来の生活全般の不安について】

- 山木屋に戻るとしてもこれから先の事を考えると不安でいっぱいです。（60代）
- 解除になり帰還してからの生活はどうなるのか？行政の方はスムーズにいくのか？など不安はあります。先が見えない。（60代）
- 現在会社員ですが、定年後、退職後の生活が心配。仕事もいつまで勤められるか？80を越えた母と70を迎えたおじの介護も、現在は私の長女が見てくれていますが…。（60代）
- 子どもの健康管理調査の面はずっと行なっていてもらいたいと思います。（30代）

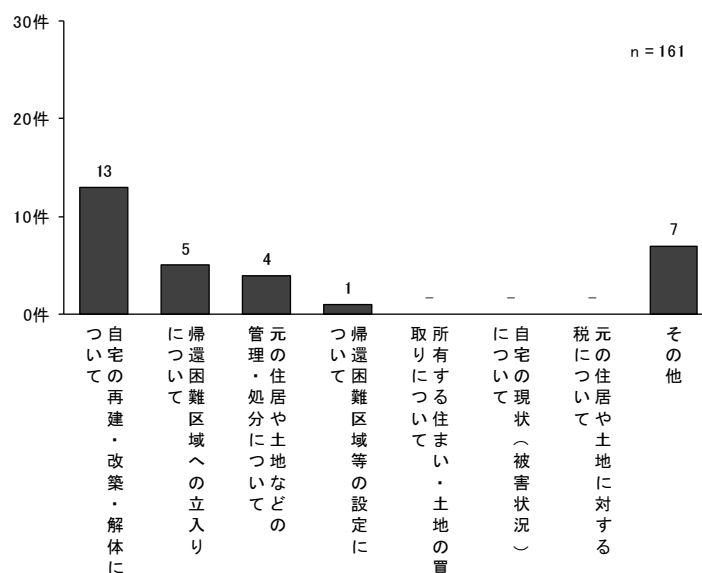
【元の生活、安定した生活の回復】

- 自分も年も80才を過ぎていたので自分の持ち家に1年でも早く行きたいと思います。子どもや孫とも家族みんなで住みたいです。（70代以上）
- 元の生活に戻るには、どうしたらいいの？むしろ、どういう対応をしてくれるの？（10～20代）
- 事故前の山木屋に戻す。元の生活をとり戻すという原点にたつべきと考えます。（60代）

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「自宅の再建・改築・解体について」が13件と最も多く、次いで「帰還困難区域への立入りについて」が5件、「元の住居や土地などの管理・処分について」が4件などとなっている。

＜図表3-3-3 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【自宅の再建・改築・解体について】

- 避難解除後、すぐに山木屋に戻りたい為、早々の解体を希望したいです。(50代)
- 3年9ヶ月で、家も建て替えないと住めないの、解体費用も出してもらえると助かる。費用を出してもらうことで、帰還の目途がたつと思う。(60代)
- 除染がなかなか進まず、家の方に戻るのが遅くなると住んでいた家に不具合が生じてきて、修理しなくてはいけなくなるとまた、大変になるんじゃないかと心配がある。(50代)

【帰還困難区域への立入りについて】

- 両親が元気な内に山木屋に泊らせたいが、水が出なく叶いません。介護4にもなって、先がわからないので早々の解除もお願いしたいです。(50代)
- 除染をされていることはわかっていますが、若いのに山木屋に働きに行っても大丈夫かい？など心配をされたりします。(10～20代)

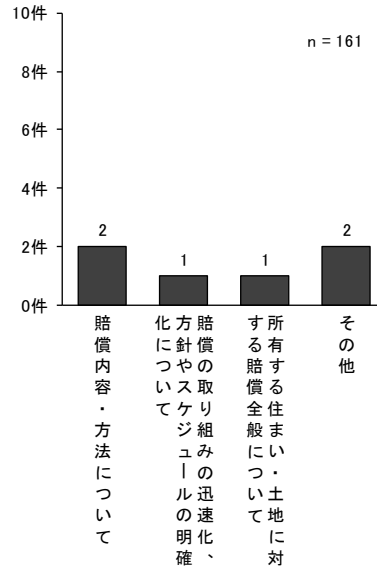
【元の住居や土地などの管理・処分について】

- 住宅のカビ、汚れ、ほこりがひどい。現在の仕事をしないながら、避難先と山木屋の往復は時間がかかり大変。除染をして一時的にきれいにはなったが、土地を維持管理するのは大変。重機購入の支援をしてもらいたい。(40代)

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が2件、「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について」が1件、「所有する住まい・土地に対する賠償全般について」が1件などとなっている。

<図表3-3-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【賠償内容・方法について】

- 賠償額の継続。(60代)

【賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について】

- 補償等もっと早く進めてほしい。(60代)

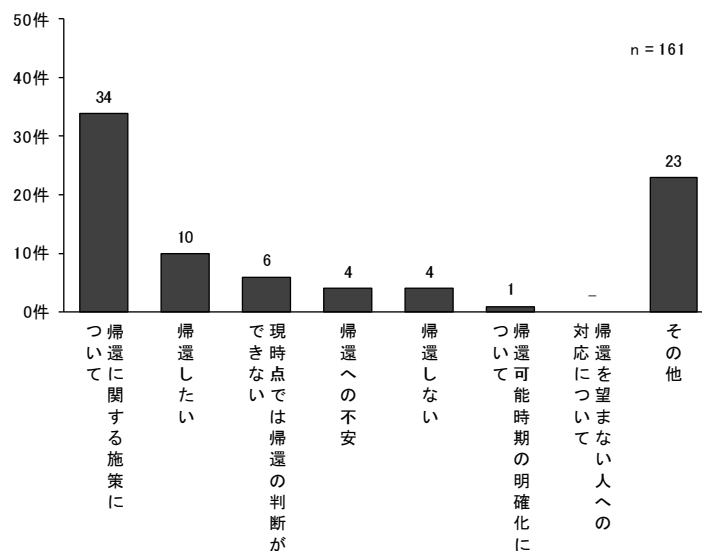
【所有する住まい・土地に対する賠償全般について】

- 物置（木造）が本年2月の大雪でつぶれた。補償はどうなっているのか。(70代以上)

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還に関する施策について」が34件と最も多く、次いで「帰還したい」が10件、「現時点では帰還の判断ができない」が6件などとなっている。

<図表3-3-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[帰還に関する施策について]

- 山木屋には、帰りたいという人もいます。その人たちのために、何をしなくてはいけないのか。復興に向けて今はどのような段階なのか、わかりやすく伝えてもらいたい。(10~20代)
- 解除後すぐに戻る人、少し時間がかかる人等考え方は違いますが、いずれは戻るための環境を先行して実施していただきたい。(60代)
- 戻るか？戻らないか？ではなく戻れるか戻れないかだ。除染の後、生活できるかどうかの判定を早く公的に出して欲しい。(60代)

[帰還したい]

- 山木屋の大自然の中で子どもを遊ばせたい。早く帰れる日を願っています。(10~20代)
- 一日でも早く帰還できる事を願います。(70代以上)
- 何十年先になるかは分かりませんが、いつかは戻りたいと考えています。(30代)

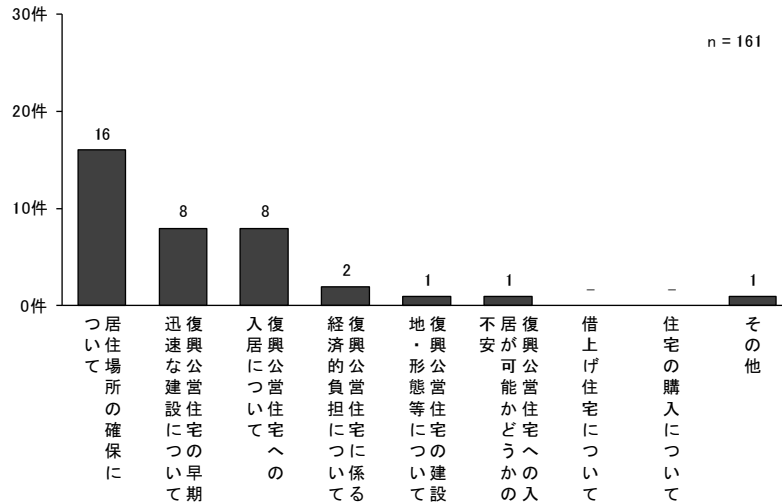
[現時点では帰還の判断ができない]

- まだ判断がつかないので、もう少し時間がほしい。(60代)
- できれば戻って営業するため頑張っている所です。地区で6割以上戻れば帰りたいと思って、まだ判断ができません。(60代)
- 年々、歳を取り山木屋での冬は厳しくなります。戻りたいと思ってもなかなか判断できません。(60代)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「居住場所の確保について」が16件と最も多く、次いで「復興公営住宅の早期・迅速な建設について」が8件、「復興公営住宅への入居について」が8件などとなっている。

<図表3-3-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【居住場所の確保について】

- ・ 祖父母が仮設住宅で生活しています。早く家族で過ごし、祖父母が安心できる家を持ちたいと願っています。(30代)
- ・ 川俣町に山木屋地区民の集合団地みたいな土地があれば入りたいと思う。私自身は最終的には川俣町へ移住したい考えが強いです。しかし山木屋へ戻りたいと言う家族も居るので少し時間が必要です。(もしかしたら2ヶ所に分かれるかも?)(60代)
- ・ 山木屋の住民が少しでも町外へ流出することなく、町内に住める様に、県町自治体で宅地造成を進めていただきたい思います。山木屋地区民はもちろん飯舘、浪江町の人達が、古里に少しでも近い所に住居を構えることができればと思います。川俣町の人口が減少することにもつながります。(60代)

【復興公営住宅の早期・迅速な建設について】

- ・ 復興住宅もいつになったら作ってもらえるのかもわからず先が見えないのが不安。(70代以上)
- ・ 復興住宅、災害公営住宅の整備は何年になるのでしょうか?住宅用地・人手・資材の不足など話を聞くが、スピードが大事だと思う。(10~20代)
- ・ とにかく今は、町内に予定されている復興住宅を早く建設していただきたいです。一応そこに入居希望しているので。(40代)

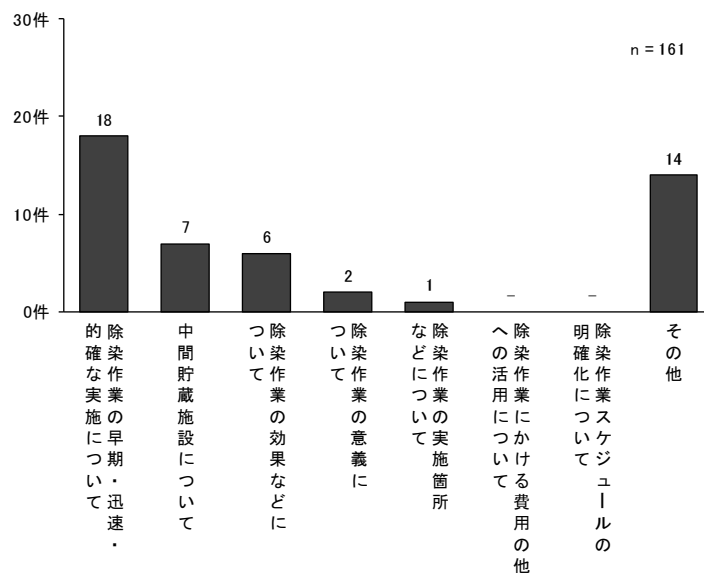
【復興公営住宅への入居について】

- ・ 川俣町の復興住宅(旧川俣精錬建物)に早く入居したい。(70代以上)
- ・ 買物をしたり医者に行ったり、もう少し自分で行いたいので公営住宅を申し込んでおきたいです。(70代以上)
- ・ 川俣町に設置される公営住宅(一戸建)に入居して、山木屋地区との関係を保ちつつ、帰還できる状況の判断をしたいと思っています。(60代)

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が18件と最も多く、次いで「中間貯蔵施設について」が7件、「除染作業の効果などについて」が6件などとなっている。

<図表3-3-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- 除染について除草剤を使用して汚染物を少なくしてほしい。(60代)
- 宅地の除染は終了したが思ったほど線量が下がらない所はどうするのか？山木屋地区内でも線量の高い所と低い所で対応が同じではダメです。倍以上線量が違うのですから。(50代)
- 山木屋地区の農地、国道、町道まで山林もすべて除染する事。(70代以上)

【中間貯蔵施設について】

- 中間貯蔵施設がそのまま最終になりそうで不安。(70代以上)
- 中間貯蔵の事はゆっくり話し合っ決めてほしい。(30代)
- 除染した土などを、早く中間貯蔵所に移動していただき、放射線量を低くしていただきたいです。(60代)

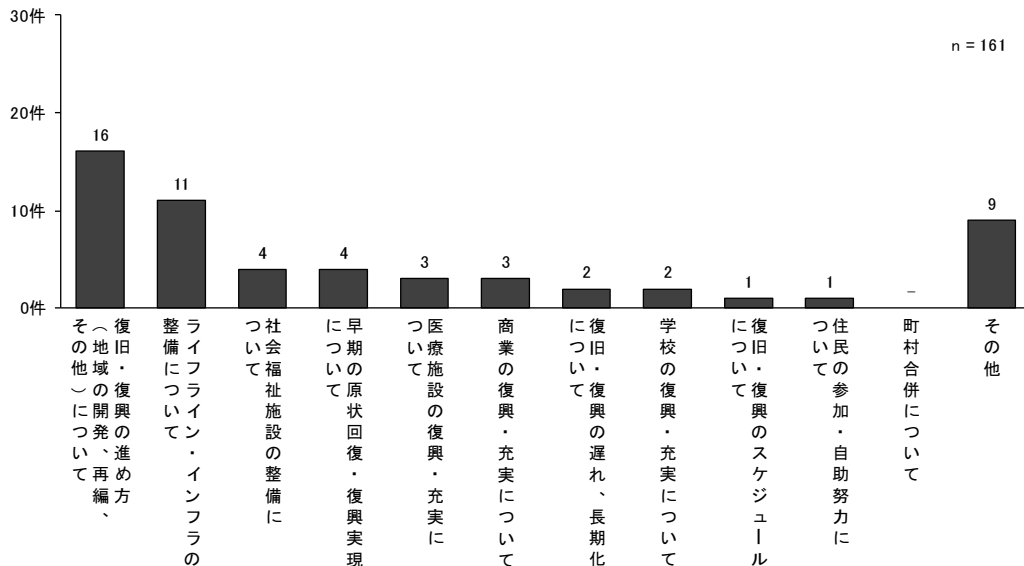
【除染作業の効果などについて】

- 山木屋地区に限らず、山間部地域の除染の方法は有効なのか？(40代)
- 除染しても、線量が下がるのは一時的な物で、居住できるとは思えない。実際の線量が本当に居住できるレベルなのか信用できない。(40代)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）」についてが16件と最も多く、次いで「ライフライン・インフラの整備について」が11件、「社会福祉施設の整備について」「早期の原状回復・復興実現について」がともに4件となっている。

<図表3-3-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- 早く復興させると言う住民の期待を加味しての計画と思われるが、諸条件を十分検討の上、計画通りに達成されます様、主計画を示してほしい。(60代)
- 除染が進んでいるので他のホットスポット等の地域よりは安全な山木屋になると思います。雇用があればまた住民が増えて、活気ある山木屋に戻るのではないのでしょうか？そうなってほしいと強く願います。復興についてや、これから工場建設予定があるなら、広大な土地のある山木屋をぜひ利用していただきたいです。(50代)
- 福祉の方に力を入れてもらいたい。ふるさとを離れて住んで始めてふるさとの良さわかりました。私はふるさとを大事にしたい。また農業の面でも力を入れてほしい。(60代)
- 帰還前にスマートコミュニティ（集合施設）を完成させてほしい。(60代)

【ライフライン・インフラの整備について】

- 山木屋から福島の高校・病院に通いやすいバスの運行が必要。(60代)
- 水が出ないため片付け、掃除ができないために家の中のゴミも出せず山木屋の家にお泊りもできていません。今後どうしていいのかわかりません。(50代)

【社会福祉施設の整備について】

- 介護施設を新設してほしい。解除後、すぐ介護を受けられるよう望む。(60代)

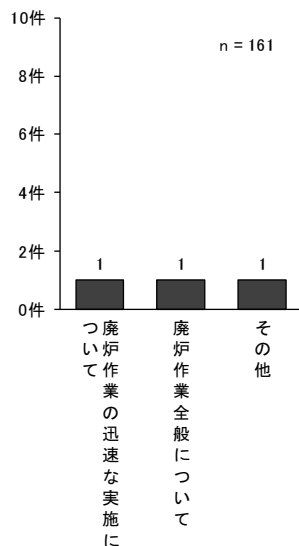
【早期の原状回復・復興実現について】

- 元の山木屋には、早く戻ってほしいと願いますし、そうなる様に多くの対策が必要です。(40代)

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業の迅速な実施について」「廃炉作業全般について」がともに 1 件となっている。

<図表3-3-9 原発の安全性についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【廃炉作業の迅速な実施について】

- 東京電力福島第一原発の廃炉促進。(70代以上)

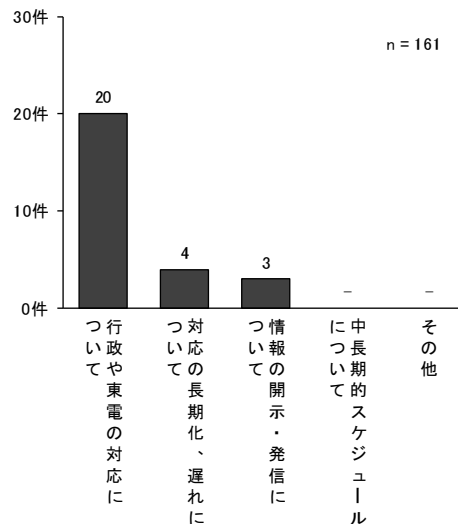
【廃炉作業全般について】

- 東電、福島原発の第1、第2のすべて10基の廃炉を、国と東電に強く申し入れていただきたい。(50代)

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が20件と最も多く、次いで「対応の長期化、遅れについて」が4件、「情報の開示・発信について」が3件となっている。

<図表3-3-10 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- ほとんど住民の要求と違った政策が出されている。除染も住居対策も復興対策も住民の要求とは違う。(50代)
- アンケートだけではなく、直接要望や話のできる機会が、仮設住宅の人より借り上げ住宅に住んでいる人は少ないような気がします。山木屋地区は世帯数も少ないのもう少し細かく対応してほしい。(50代)
- 川俣町は一部が避難の対象になっており当事者意識が他の市町村に比べて低い。対応も他の市町村に比べて遅い。もっとしっかりやって欲しい。(30代)

【対応の長期化、遅れについて】

- 国は、良い方に進むように早めにしてほしい。時間がたちすぎ！！(50代)
- 何事も遅いので早く27年中に進めて下さい。(70代以上)

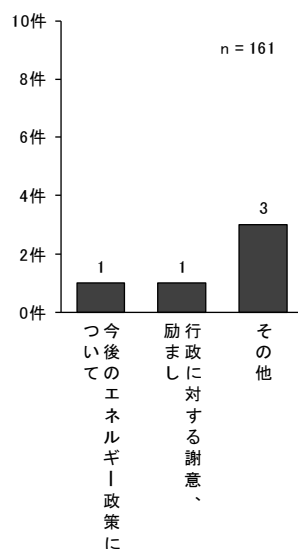
【情報の開示・発信について】

- ニュースを見ているだけでも建設計画の事ばかりで、それに伴う他の情報がありません。地元への説明も大事ですが、周辺地区は良いのでしょうか？(30代)

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「今後のエネルギー政策について」「行政に対する謝意、励まし」がともに 1 件となっている。

<図表3-3-11 その他についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政に対する謝意、励まし】

- 除染や復興に関わっている方々には、とても感謝しています。(30代)

【今後のエネルギー政策について】

- 原子力の安全性！！福島は収束していないが、首相は世界に原発を売り込んでいる。世界から、JAPANは？が付く。(60代)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

川俣町山木屋地区住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

ご回答は、**世帯の代表者の方**にお願いいたします。

現在世帯が何か所かに分かれて避難されている場合は、**それぞれの場所にお住まいの代表者の方**に、ご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。

「その他」に○をされた場合は、()内に具体的な内容もご記入ください。

□の中に具体的な内容の記入をお願いしている問には、具体的な内容（地名、数など）をご記入ください。

➤ 個人情報について

- ・調査票は記名式でお願いしております。（最後のページに「住所」、「氏名」、「連絡先」のご記入をお願いします）。
- ・調査票に記載いただいた個人情報は、復興庁、福島県及び川俣町において適切に管理するとともに、各種施策の検討目的以外には使用致しません。
- ・また、回答はすべて統計的な処理を行い、個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**12月16日（火）まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。

【お問い合わせ先】

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

調査の趣旨、記入方法について

フリーダイヤル 0120-966-839

[設置期間：12月3日（水）～12月16日（火）10時～17時]

土・日・祝を除く

福島県

復興公営住宅について

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号

企画調整部避難地域復興局生活拠点課

Tel 024-521-8617

川俣町

川俣町に関することについて

〒960-1492 福島県伊達郡川俣町字五百田30番地

原子力災害対策課 住民支援係

Tel 024-566-2111

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 1 あなたの現在の年齢(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳 | 8. 50~54歳 |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳 |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にうかがいます。】

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | | |
|---------------------------|-----------------|--------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 7. パート・アルバイト | } ⇒問3へ |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 8. 学生 | |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していない) | |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している) | } |
| 5. 団体職員 | 11. その他(具体的に | |
| 6. 公務員 |) | |

【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | | |
|-------------------|--------------|---|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 | } |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 | |
| 3. 製造業 | 9. 教育 | |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 | } |
| 5. 運輸業 | 11. その他(具体的に | |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 |) | |

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 3 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|--------|---------|-----------------------|
| 1. 1区 | 6. 5区 | 11. 9区 |
| 2. 甲2区 | 7. 6区 | 12. 不明 |
| 3. 乙2区 | 8. 7区 | (わからない場合は住所を記載してください) |
| 4. 3区 | 9. 甲8区 | } |
| 5. 4区 | 10. 乙8区 | |

【すべての方にうかがいます。】

問 4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 8. 親戚・知人宅 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. その他 [具体的に |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | } |
| 5. 公営住宅 | |
| 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) | |

【問 4 で「1. 持ち家(一戸建)」「2. 持ち家(集合住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問 4-1 震災および原発事故発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。(○は1つ)

- | |
|--------------------------|
| 1. 解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる |
| 2. 修理すれば住める状況 |
| 3. 特に損傷はない ⇒問 5 へ |
| 4. わからない ⇒問 5 へ |

【問 4-1 で「1. 解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる」「2. 修理すれば住める状況」と回答した方にうかがいます。】

問 4-2 震災および原発事故発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような被害や劣化等がありますか。
(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 地震の影響と思われる大きな損壊等がある | 5. カビが多く発生している |
| 2. 火災被害を受けている | 6. 屋内の放射線量が高い(屋外と同等程度) |
| 3. 動物等が侵入した跡があり荒れている | 7. その他 [具体的に |
| 4. 雨漏りの形跡がみられる | } |

避難状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 5 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(○は1つ)

<p>【 浜 通 り 】</p> <p>1. いわき市</p> <p>2. 相馬市</p> <p>3. 南相馬市</p>	<p>【 中 通 り 】</p> <p>4. 福島市</p> <p>5. 郡山市</p> <p>6. 白河市</p> <p>7. 須賀川市</p> <p>8. 二本松市</p> <p>9. 田村市</p> <p>10. 伊達市</p> <p>11. 本宮市</p> <p>12. 桑折町</p> <p>13. 川俣町 (山木屋地区以外)</p> <p>14. 三春町</p>	<p>【 会 津 】</p> <p>15. 会津若松市</p> <p>【 福島県内のその他の市町村(1 から 15 以外) 】</p> <p>16. 福島県内のその他の市町村 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 5px auto;"></div> (市・町・村) <p>【 福島県外 】</p> <p>17. 福島県外 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 5px auto;"></div> (都・道・府・県) <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 5px auto;"></div> (市・町・村)
--	---	--

【すべての方にうかがいます。】

問 6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

(1) 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

(2) 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

【すべての方にかがいます。】

問 7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1. 応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償) | 6. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 応急仮設住宅(プレハブ型。無償) | 7. 親戚・知人宅 |
| 3. 公営住宅(1.は除く。有償) | 8. 持ち家(ご本人またはご家族所有) |
| 4. 民間賃貸住宅(有償) | 9. その他 (具体的に |
| 5. 給与住宅(社宅など) |) |

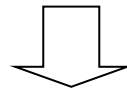
将来に関するご意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

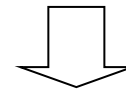
問 8 将来、山木屋地区の避難指示が解除された後の山木屋地区への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。

1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)

2. まだ判断がつかない



問 8-1-1 へお進みください



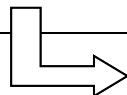
問 8-2-1 へお進みください

問 8-1-1 山木屋地区へ戻る時期を教えてください。
(〇はひとつ)

1. 解除後すぐに戻りたい
2. 解除後3年以内に戻りたい
3. 解除後5年以内に戻りたい
4. 解除後10年以内に戻りたい
5. 時期は決めていないがいずれ戻りたい

問 8-1-2 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。
(〇はひとつ)

1. 家族全員での帰還を考えている
2. 家族一部での帰還を考えている
3. 現在検討しているところ
4. まだわからない



問 8-4 へお進みください

問 8-2-1 山木屋地区へ戻ることを判
(〇はいくつでも)

1. 避難指示解除となる時期の目安
2. 道路、鉄道、学校、病院などの社
3. どの程度の住民が戻るかの状況
4. 放射線量の低下の目途、除染成
5. 中間貯蔵施設の情報
6. 原子力発電所の安全性に関する
7. 放射線の人体への影響に関する
8. 働く場の確保の目途
9. 受領する賠償額の確定
10. 住宅確保への支援に関する情報
11. その他(具体的に)
12. 現時点で家族間の意見が分かれ
13. 現時点ではどのような情報があれ

問 8-2-2 上記「1」から「11」で重視した

選択肢番号	

「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。(○は1つ)

3. 戻らないと決めている

問 8-3 へお進みください

断するために必要なことを教えてください。

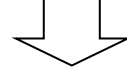
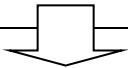
に関する情報
会基盤(インフラ)の復旧時期の目途
果の状況

情報(事故収束や廃炉の状況)
情報

)
ており、帰還意向について回答できない
ば判断できるかわからない

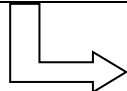
いことを3つまで選び、その条件を教えてください。

具体的な内容



問 8-3 山木屋地区との“つながり”(例えば情報提供、地区行事、イベント等)を保ちたいと思いますか。(○は1つ)

1. そう思う
2. そう思わない
3. わからない



問 8 で「2.まだ判断がつかない」を選んだ方は問 9 へ
問 8 で「3.戻らないと決めている」を選んだ方は問 8-7 へ

【問 8 で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 8-4 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

- | | |
|---|----------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む) 2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい 3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい 4. 民間賃貸住宅(一戸建) 5. 民間賃貸住宅(集合住宅) 6. 公営住宅(新設される場合も含む) 7. 給与住宅(社宅など) 8. 家族のどなたかのお住まい・実家 9. 親戚・知人宅 10. その他 (具体的に | ⇒問 8-6 へ |
| <ol style="list-style-type: none"> 11. 現時点では判断できない | ⇒問 8-5 へ |

【問 8-4 で「2」から「11」と回答した方にうかがいます。】

問 8-5 元の持ち家以外を希望される理由は、何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 元の持ち家(自宅)周辺の放射線量の高さが心配だから 2. 元の持ち家(自宅)周辺に住む人が少ないと思うから 3. 川俣町(山木屋地区以外)の新たな場所で生活を開始したいから 4. 元の持ち家(自宅)が荒廃しているから 5. その他(具体的に |) |
|---|---|

↓ 問 8-6 へお進みください

【問 8 で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 8-6 山木屋地区に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。

(○はいくつでも)

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 被ばく低減対策 2. 住宅の修繕や建て替えへの支援 3. 商業施設の再開や新設 4. 医療、介護福祉施設の再開や新設 5. 学校や教育施設の再開や新設 6. 公共交通機関の再開 7. 雇用確保・就業支援 8. 携帯電話やインターネット等通信環境の改善 9. その他(具体的に 10. 特にない |) |
|--|---|

→ 問 9 へお進みください

【問8で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 8-7 戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(○はいくつでも)

<p>【帰還の前提・健康に関わるもの】</p> <ol style="list-style-type: none"> 放射線量が低下せず不安だから 原子力発電所の安全性に不安があるから 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから <p>【山木屋地区の復旧状況に関わるもの】</p> <ol style="list-style-type: none"> 山木屋地区に戻っても仕事がなさそうだから 山木屋地区での事業の再開が難しいから 営農などができそうにないから 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから 山木屋地区外への移動交通が不便だから 道路等の交通インフラに不安があるから 医療環境に不安があるから 介護・福祉サービスに不安があるから 教育環境に不安があるから 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから 	<p>【今後の生活に関わるもの】</p> <ol style="list-style-type: none"> 高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから 他の住民も戻りそうにないから 帰還までに時間がかかるから 避難先で仕事を見つけているから 今の環境で子どもの教育を継続させたいから 避難先の方が生活利便性が高いから その他 } 具体的に
--	---

【問8で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 8-8 帰還しない場合に、居住を希望する自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。(○は1つ)

<p>【 浜 通 り 】</p> <ol style="list-style-type: none"> いわき市 相馬市 南相馬市 広野町 檜葉町 川内村 新地町 	<p>【 中 通 り 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 福島市 郡山市 白河市 須賀川市 二本松市 田村市 伊達市 本宮市 桑折町 川俣町 (山木屋地区以外) 大玉村 西郷村 三春町 	<p>【 会 津 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 会津若松市 喜多方市 会津美里町 <p>【 福島県内のその他の市町村(1 から 23 以外) 】</p> <p>24. 福島県内のその他の市町村 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <p style="text-align: right;">(市・町・村)</p> <p>【 福島県外 】</p> <p>25. 福島県外 →具体的にご記入ください</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <p style="text-align: right;">(都・道・府・県)</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <p style="text-align: right;">(市・町・村)</p> <p>【 その他 】</p> <p>26. 決めかねている</p>
---	---	--

IV 参考資料

【問8で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 8-9 帰還しない場合に、今後のお住まいとして、希望する住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建)
2. 持ち家(集合住宅)
3. 民間賃貸住宅(一戸建)
4. 民間賃貸住宅(集合住宅)
5. 公営住宅
6. 給与住宅(社宅など)
7. 家族のどなたかのお住まい・実家
8. 親戚・知人宅
9. その他(具体的に)
10. 現在のお住まい
11. 現時点では判断できない

問8で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 8-10 震災および原発事故当時に居住されていた山木屋地区に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(○はいくつでも)

1. 住宅の確保の支援
2. 継続的な健康管理の支援
3. 雇用確保の支援
4. 仮設住宅・借り上げ住宅の継続的利用
5. 町役場からの継続的な情報提供
6. 一時帰宅支援
7. その他(具体的に)

【すべての方にうかがいます。】

問 9 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

最後に、あなたご自身のことについて教えてください。

本調査は、皆様の現時点での避難状況、将来の生活再建の意向を確認させていただくものです。皆様からのご回答・ご意見は、避難期間中の生活環境の整備や、帰還等の諸施策の適切な実施に向けた取り組みをさらに具現化するための基礎資料とさせていただきます。

今後、改めて、諸施策について、詳しくご意向をお聞きする場合がありますので、現在のご住所とご連絡先のご記入をお願いいたします。

F1 現在のあなたの住所(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

F2 あなたの氏名

F3 あなたの連絡先(電話番号)

以上でご回答いただく内容は終わりです。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済み調査票を入れて、
12月16日(火)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**川俣町 住民意向調査
報告書**

平成27年3月

復興庁 福島県 川俣町

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター

